

時間割コード	KB1101	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L（現代社会）	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員（ローマ字表記）	岩佐 淳一				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

（１）自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。（２）現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。（３）大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。（４）他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- （１）4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意（大学HP、掲示板、担任制度、オフィスパワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど）
（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）
- （２）4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画（含：クォーター制、CAP制、GPA）
大学4年間で学びたいこと
（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）
- （３）5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演（キャリアセンター）
- （４）5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）
- （５）5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- （６）5/27 選挙について：外部講師による講演（茨城県選挙管理委員会）
- （７）6/3 資料の探し方、レポートの書き方（入門編）
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- （８）6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演（消費生活センター）
- （９）6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1102	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	齋藤 義彦				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスアワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)
大学4年間で学びたいこと
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演 (キャリアセンター)
- (4) 5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/27 選挙について：外部講師による講演 (茨城県選挙管理委員会)
- (7) 6/3 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (8) 6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演 (消費生活センター)
- (9) 6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1103	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	林 延哉				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスアワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)
大学4年間で学びたいこと
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演 (キャリアセンター)
- (4) 5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/27 選挙について：外部講師による講演 (茨城県選挙管理委員会)
- (7) 6/3 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (8) 6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演 (消費生活センター)
- (9) 6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1104	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	加藤 敏弘 (Toshihiro KATO)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスパワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)
大学4年間で学びたいこと
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演 (キャリアセンター)
- (4) 5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/27 選挙について：外部講師による講演 (茨城県選挙管理委員会)
- (7) 6/3 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (8) 6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演 (消費生活センター)
- (9) 6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1105	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	蓮井 誠一郎 (Seiichiro HASUI)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスパワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)
大学4年間で学びたいこと
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演 (キャリアセンター)
- (4) 5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/27 選挙について：外部講師による講演 (茨城県選挙管理委員会)
- (7) 6/3 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (8) 6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演 (消費生活センター)
- (9) 6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）
この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。
オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1106	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	細谷 幸男				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスアワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)
大学4年間で学びたいこと
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演 (キャリアセンター)
- (4) 5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/27 選挙について：外部講師による講演 (茨城県選挙管理委員会)
- (7) 6/3 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (8) 6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演 (消費生活センター)
- (9) 6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1107	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	Chienwei YEH (Chienwei YEH)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学における学びの技法

授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要となる、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/15 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスアワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/22 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)
大学4年間で学びたいこと
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 5/6 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演 (キャリアセンター)
- (4) 5/13 キャリアについて考える：グループディスカッション
外部講師の講演内容についての振り返り、議論
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/20 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/27 選挙について：外部講師による講演 (茨城県選挙管理委員会)
- (7) 6/3 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (8) 6/10 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演 (消費生活センター)
- (9) 6/17 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/24 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 7/ 1 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等とおして習得することを目指す。

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(12) 7/ 8 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(13) 7/15 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(14) 7/22 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

（アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション）

(15) 7/29 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。遅刻はしないこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

初回にPCを持参すること。2回目以降は担当教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1108	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	荒木 雅也				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1109	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	宮崎 忠恒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1110	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	掛貝 祐太 (Yuta Kakegai)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1111	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	後藤 玲子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1112	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	福田 智子 (Tomoko Fukuda)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何が出来るか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1113	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	高井 美智明 (Takai Michiaki)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1114	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	高橋 大輔				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1115	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	松井 良和 (Matsui Yoshikazu)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学と法学・経済学

授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

①図書館ガイダンス

②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何が出来るか?

【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

情報端末の活用

①講義で使用する資料をTEAMSや教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1116	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	伊藤 聡				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告 (2)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告 (3)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

: グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み (30%、評価の観点には到達目標の1と2)、②プレゼンテーション (30%、評価の観点には到達目標の3)、③期末レポート (40%、評価の観点には到達目標の3) により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1117	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	岡崎 正男				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

：発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告（2）

：発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告（3）

：発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

：グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み（30%、評価の観点には到達目標の1と2）、②プレゼンテーション（30%、評価の観点には到達目標の3）、③期末レポート（40%、評価の観点には到達目標の3）により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1118	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	櫻井 豪人				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告 (2)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告 (3)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

: グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A : 自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B : 自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C : 自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D : 自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み (30%、評価の観点には到達目標の1と2)、②プレゼンテーション (30%、評価の観点には到達目標の3)、③期末レポート (40%、評価の観点には到達目標の3) により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1119	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	佐々木 啓				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告 (2)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告 (3)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

: グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み (30%、評価の観点には到達目標の1と2)、②プレゼンテーション (30%、評価の観点には到達目標の3)、③期末レポート (40%、評価の観点には到達目標の3) により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1120	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	中田 潤 (Jun Nakata)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告 (2)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告 (3)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

: グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み (30%、評価の観点には到達目標の1と2)、②プレゼンテーション (30%、評価の観点には到達目標の3)、③期末レポート (40%、評価の観点には到達目標の3) により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1121	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	青山 和夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

：発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告（2）

：発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告（3）

：発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

：グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み（30%、評価の観点には到達目標の1と2）、②プレゼンテーション（30%、評価の観点には到達目標の3）、③期末レポート（40%、評価の観点には到達目標の3）により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1122	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	金丸 隆太				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的探求入門

授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/14 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/21 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/28 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 5/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/19 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/26 合同授業、大学生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 6/2 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/9 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/16 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/23 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/30 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/7 学習テーマに関する調査と報告 (1)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(13) 7/14 学習テーマに関する調査と報告 (2)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(14) 7/21 学習テーマに関する調査と報告 (3)

: 発表と質疑応答、議論を行う

(15) 7/28 まとめ

: グループディスカッションを行う

※合同授業の受講場所については担当教員が指示する。対面を原則とするが、やむを得ない事情でオンライン、または録画の視聴になる場合もある。

※授業時間外に各自で録画等を視聴し、授業時間にはそれに関する討論等を行う場合もある。

※授業の進行・順序は変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

各回の授業外学習に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第3回、第4回、第7回、第9回、第15回は、テーマに応じたグループ・ディスカッションを行う。

(2)第11回、第12回、第13回、第14回は口頭発表と質疑応答・議論を行う。

履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

情報端末の活用

情報端末を使用する。詳細は教員が授業中に指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み (30%、評価の観点には到達目標の1と2)、②プレゼンテーション (30%、評価の観点には到達目標の3)、③期末レポート (40%、評価の観点には到達目標の3) により行う。評価にルーブリックを利用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか] 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1201	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(国語)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	李 満紅				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

国語科教育入門

授業の概要/Course Overview

この授業では大学での学修の意識や態度について理解を図る。自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を習得し、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、調査活動やグループディスカッション等をふまえ、今後のキャリア教育との関連性を理解する。

キーワード/Keyword(s)

言語活動、自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル教育、グループディスカッション、調査活動

到達目標/Learning Objectives

- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につけることができる。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につけることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス

大学での学修・生活環境における自由と責任(アクティブ・ラーニング手法：プレゼンテーション、デモンストレーション)「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」

- ・「4年間の履修計画について：社会において仕事と人生のキャリア教育、グローバル教育への展開を見据えて学ぶ」
- ・「学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか」

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法 ①ディスカッション

第4回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法 ②パフォーマンス力について

第5回：図書館の活用

- ・図書館ガイダンスと説明(45分)
- ・図書館を利用した学習とラーニング・コモンズ

第6回：「読む」、「書く」に関する技法と作法① テキストの読み方

第7回：「読む」、「書く」に関する技法と作法② ノートの書き方

第8回：「読む」、「書く」に関する技法と作法③ レポート、論文作成について

第9回：「読む」、「書く」に関する技法と作法④ 「学習の手引き」をもとに 剽窃・盗用・捏造・改ざんなどについて

第10回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法③ 話し手を生かす聞き手について

第11回：「読む」、「書く」に関する技法と作法⑤ テーマを決めて原稿を書いてみよう

第12回：「読む」、「書く」に関する技法と作法⑥ 原稿を推敲しよう

第13回：「読む」、「書く」に関する技法と作法⑦ 原稿をもとに発表しよう

第14回：言語活動と国語教育

国語教育を中心とする学校教育において、言語活動の意義と種類を概観する。

第15回：総括

言語活動について、達成目標に照らして意義をとらえ直す。

【授業外学修】

<各回の授業外学修に要する時間は 90 分程度目安とする。>

(第 1 回から第 5 回)

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったグループ・ディスカッションの振り返り、理解深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

(第 6 回から第 15 回)

予習：教科書を読み、言語活動について知るとともに、「話す・聞く・書く・読む」について、どのような活動が有効かを考える。

復習：授業で行った言語活動に対して、足りなかった部分を補うとともに、自己の言語を内省し、活動の意味について考察する。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1,4,9,13回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。

(2) 毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- ・予習復習は必ず行うこと。・遅刻は出席とはみなさない。
- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

- ・Teams・manaba・教務情報ポータルシステムを随時活用する。
- ・毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：専門分野の学修における基本的な考え方を十分に理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- A：専門分野の学修における基本的な考え方を理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- B：専門分野の学修における基本的な考え方を概ね理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- C：専門分野の学修における基本的な考え方を最低限理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- D：専門分野の学修における基本的な考え方を理解できておらず、今後のキャリア教育との関連性を説明できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は、毎時間の授業終了時に書く「ミニツツペーパー」（70%）、プレゼンテーションを含めたレポート作成（30%）。

評価に際しては、ルーブリックを使用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	

教材費	
-----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力
著者名	山田剛史, 林創著
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2011
ISBN	978-4623060450
教材費	2640

参考書2

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか]著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	978-4407340617
教材費	1320

参考書3

書名	思考を鍛える大学の学び入門：論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで
著者名	井下千以子著
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	2020
ISBN	978-4766426519
教材費	1320

参考書4

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	978-4874247891
教材費	1980

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1202	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	村山 朝子(Tomoko Murayama)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

社会科教育入門

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

主体的な学修、思考力・判断力・表現力、調査活動、グループディスカッション、社会科教育、地域、世界

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につけることができる。
- ・社会科教育に関する幅広い知識を身につけ、俯瞰的に理解できる。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス 大学での学修・生活環境における自由と責任
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」
- 第3回：「聞く」「話す」に関する技法と作法
- 第4回：「読む」「書く」に関する技法と作法
*「学習の手引き」をもとに、剽窃・盗用・捏造・改ざんなどについて学ぶ。
- 第5回：図書館ガイダンス
*第1回～第5回は『茨城大学での学修の手引き―「大学入門ゼミ」から始めよう―』を使用する。
- 第6回：社会科を学ぶ 社会科で学ぶ
- 第7回：地理を学ぶ、地理で学ぶ
- 第8回：歴史を学ぶ、歴史で学ぶ
- 第9回：公民を学ぶ、公民で学ぶ
- 第10回：附属小学校授業見学
- 第11回：附属中学校授業見学
- 第12回：地域を考える(1) 水戸・茨城県と私たち
- 第13回：地域を考える(2) 日本・世界と私たち
- 第14回：地域を考える(3) グループディスカッションとプレゼンテーション
- 第15回：社会科教育を考える グループディスカッションとプレゼンテーション

【授業外学修】

- (1) 授業内容を踏まえ、関連文献などに当たり知識を習得するとともに、各自テーマや課題についての考えをまとめ、ディスカッションに備える。
- (2) 学校見学に向けて、マナーや心構えを身につけておく。
- (3) 学外観察を含む調査結果を整理し、プレゼンテーションに向けた準備を協働して行う。
- (4) 授業外学修時間は各回90分程度を目安とする。

【アクティブラーニング】

- ・ガイダンスや見学以外の授業においては、全ての回でディスカッションを行う。
- ・プレゼンテーションに向けた調査等を実施する。
- ・学校での授業見学や学外施設等での見学を行う。

履修上の注意/Notes

- ・著しい遅刻は欠席扱いとする。また遅刻は3回で1回の欠席とす
- ・学外、学修時間外での活動にかかる交通費などは自己負担とする。
- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

- ・授業内外で情報端末を活用する。
- ・毎回の授業時にはPCを必ず持参すること。
- ・授業で使用する資料等はmanaba等を通じて配信する。
- ・授業でのアンケートやミニッツレポートはforms等を通じての提出となる。
- ・課題レポートについてはmanaba等を通じての提出となる。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 90点以上100点 到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
- A : 80点以上90点未満 到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
- B : 70点以上80点未満 到達目標と学修成果を概ね達成している。
- C : 60点以上70点未満 合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
- D : 60点未満 到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

評価に際しては、ルーブリックを使用する。

授業での活動状況（ミニッツペーパー）：50点/調査報告レポート：30点/プレゼンテーション：20点

第16回の期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	

教材費	
-----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	アカデミック・スキルズ（第3版）大学生のための知的技法入門
著者名	佐藤望編著；湯川武, 横山千晶, 近藤明彦著
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	2020
ISBN	9784766426564
教材費	1100

参考書2

書名	スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子著, 間淵泰ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書3

書名	学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク
著者名	桑田てるみ編；桑田てるみほか執筆
出版社	実教出版
出版年	2015
ISBN	9784407336146
教材費	1320

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1203	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(数学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	吉井 豊				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

数学入門

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」

(アクティブ・ラーニング手法) ディスカッション「4年間の履修計画について：グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据えて学ぶ」

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

(アクティブ・ラーニング手法) ディスカッション「効果的なプレゼンテーションについて」

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法(「茨城大学での学修の手引き-『大学入門ゼミ』から始めよう-」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する)

(アクティブ・ラーニング手法) ディスカッション「卒業論文のテーマを考える」

第5回：図書館の活用

- ・図書館ガイダンスの説明(45分)

- ・第6回から第15回の準備

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第6回～15回：

出席者の輪読（ゼミ形式）によって講義を進める。したがって必ずしも授業計画通りに進むとは限らない。オムニバス形式ではなく連続形式の講義なので、予習復習は不可欠である。発表者に当たったものは十分な準備を行って講義に望まなければならない。

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第6回：定義・定理などの基本的な用語（命題、定理など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第7回：定義・定理などの基本的な用語（定義、公理など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第8回：集合の記法（集合の定義、記法など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第9回：集合の記法（部分集合、数の集合など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第10回：命題論理（命題の否定、真偽など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第11回：命題論理（論理積、論理和など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第12回：命題の同値・背理法（仮定と結論、同値など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第13回：命題の同値・背理法（矛盾、背理法など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第14回：習慣的に使われる記号や言葉（論理記号、等号など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第15回：習慣的に使われる記号や言葉（存在性、一意性など）

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

【授業外学修】

(全学共通部分について)教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

(選修独自部分)口頭発表の練習をした上で、授業に臨むこと。

各回の授業外学修に要する時間は 90 分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
- ・遅刻は認めない。

情報端末の活用

15回目でアンケートを実施するため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点 到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満 到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満 到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満 合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満 到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は行わない。成績の評価は講義中の口頭発表の様子（7割）、レポート（3割）により行う。評価に際しては、ルーブリックを使用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	大学数学ベーシックトレーニング
著者名	和久井 道久
出版社	日本評論社
出版年	2013
ISBN	9784535786820
教材費	2420

教科書2

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1204	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(理科)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	青島 政之, 棗田 孝晴 (Aoshima Masayuki)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学理入門

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、論文やレポートを書くための考え方を意識づける。そのために、学生自らが考える活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、レポートの考え方、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

<ul style="list-style-type: none"> ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。 ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。 ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任(棗田) (シンク・ペア・シェア)「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」</p> <p>第2回：高校から大学への「学びの転換」(棗田) (ピア・インストラクション、ディスカッション)「4年間の履修計画：卒業後の目標を見据えた履修計画」についてディスカッションする。</p> <p>第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法(棗田) (ピア・インストラクション、ディスカッション)「効果的なディスカッションとプレゼンテーションについて」</p> <p>第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法(棗田) (リーディング・ライティング・ディスカッション)テキストを正確に読んで、概念の関係性をわかりやすく図示してみる。それを相互に検討してみる。 「学習の手引き」をもとに 剽窃・盗用・捏造・改ざんなどについて学ぶ。</p> <p>第5回：図書館の活用(棗田) ・図書館ガイダンスの説明(45分) ・図書館を利用した学習とラーニング・commons (ディスカッション) 「図書館情報と資料収集のメリット、情報倫理」</p> <p>第6回：論文・レポートの考え方1 自分のテーマを発見する(青島) (ブレインストーミング)自分の興味・関心について考える。雑多な興味関心をいくつかの問題関心に集約し、問題意識を見つける。</p>

第7回：論文・レポートの考え方2 問題意識から「なぜ」を問う（青島）

（グループ・ディスカッション）問題意識についてディスカッションする中で気づいたことをメモにまとめる。

第8回：論文・レポートの考え方3 自分のテーマを表現する（青島）

（プレゼンテーション）ディスカッションしたことを発表し、意見を出し合う。これらを参考にして結論をまとめる。

第9回：論文・レポートの考え方4 テーマと主張を作る（青島）

（グループ・ディスカッション）前回決めたテーマについて、もう一度「自分の問題として捉える」ことを考えてみる。

第10回：論文・レポートの考え方5 自分のテーマで対話する（青島）

（Brief Report of the Day）「問いと答え」を見出し、序論・本論・結論という形式で書いてみる。

第11回：論文・レポートの考え方6 発表とまとめ（青島）

（プレゼンテーション）レポート内容の発表とまとめ。

第12回：研究室案内（宮本・郡司）

第13回：研究室案内（伊藤・上栗）

第14回：研究室案内（棗田・阿部）

第15回：研究室案内（永尾・青島）

【授業外学修】

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。予習・復習については可能な限り目安となる学修時間を記載すること。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

30分の遅刻3回で1回分の欠席とする。

新型コロナウイルス感染症対応の活動基準に応じ、授業計画や成績評価方法等を変更する場合がある。

情報端末の活用

・講義資料はmanabaで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

・ミニツツペーパーは、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：大学入門ゼミの基本的な知識と考え方を十分に理解し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：大学入門ゼミの基本的な知識と考え方を理解し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：大学入門ゼミの基本的な知識と考え方を概ね理解し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：大学入門ゼミの基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：大学入門ゼミの基本的な知識と考え方が理解できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

定期試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載したミニツツペーパー（40%）、②プレゼンテーション（60%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をループリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	自分の「ことば」をつくる：あなたにしか語れないことを表現する技術
著者名	細川英雄 [著]
出版社	ディスカヴァー・トゥエンティワン
出版年	2021
ISBN	4799327755
教材費	1100

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1205	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(英語)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	安原 正貴, 君塚 淳一, 小林 英美, 齋藤 英敏, 青田 庄真 (Hidemi Kobayashi, Aota)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ディスカッションとスピーチ

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自立的・意欲的な学生生活を行うための知識・知能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につめることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自立的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける
 自らの専門的分野(学部・学科など)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける
 協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回(担当:安原)【対面授業】

【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任。

ディスカッションとスピーチ:他己紹介

(アクティブラーニング手法:グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第2回(担当:安原)【対面授業】

【授業内容】高校から大学へ

ディスカッションとスピーチ:iOPの計画について

(アクティブラーニング手法:グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第3回(担当:安原)【対面授業】

【授業内容】「聞く」「話す」に関する技法と作法

インタビューとスピーチ：哲学対話

(アクティブラーニング手法：インタビュー活動、他己紹介(プレゼンテーション))

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第4回(担当：安原)【対面授業】

【授業内容】「読む」「書く」に関する技法

「学習の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。

ディスカッションとスピーチ：教員に必要な資質とは何か？

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第5回(担当：安原)【オンライン授業(オンデマンド, manaba)】

【授業内容】「図書館」の活用

図書館ガイダンス

プレゼンの準備

(アクティブラーニング手法：プレゼンのテーマ設定と調査活動)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第6回(担当：齋藤)【対面授業】

【授業内容】英語教育について

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第7回(担当：青田)【対面授業】

【授業内容】英語コミュニケーションについて

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第8回(担当：君塚)【対面授業】

【授業内容】アメリカ文学について

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第9回(担当：小林)【対面授業】

【授業内容】イギリス文学について

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

第10回(担当：安原)【対面授業】

【授業内容】批判的にレポートを読む

レポートのピアレビュー

プレゼンの作り方について

プレゼンのスライド作り

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度

を目安とする。

第11回（担当：安原）【対面授業】

【授業内容】英語学について

プレゼンの技法と演習

（アクティブラーニング手法：プレゼンテーションの発表練習）

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度

を目安とする。

第12回（担当：安原）【対面授業】

【授業内容】プレゼンを行う（1）

（アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答）

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度

を目安とする。

第13回（担当：安原）【対面授業】

【授業内容】プレゼンを行う（2）

（アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答）

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度

を目安とする。

第14回（担当：安原）【対面授業】

【授業内容】プレゼンを行う（3）

（アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答）

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度

を目安とする。

第15回（担当：安原）【対面授業】

【授業内容】プレゼンを行う（4）

（アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答）

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。授業外学修に要する時間は90分程度

を目安とする。

履修上の注意/Notes

予習復習は指示をするので必ず行うこと。遅刻は30分以上は欠席とする。遅刻は3回で欠席1回とみなされる。

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。授業担当者のオフィスアワーは「授業科目一覧および時間割」を参照のこと。

（安原のオフィスアワー：火曜日昼休み）

新型コロナウイルス感染症対応の活動基準の変化に応じ、授業計画や成績評価方法等を変更する場合がある。

情報端末の活用

第5回および第10回～第11回授業ではPCを使用するため、必ず持参すること。第12回～第15回授業については、プレゼンを行う学生はPCを持参してください。

課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+： 90点以上100点 到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A： 80点以上90点未満 到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。

B： 70点以上80点未満 到達目標と学修成果を概ね達成している。

- C : 60点以上70点未満 合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満 到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。活動への積極的な参加（60%）、最終のプレゼンとその質疑応答への参加やレポート（40%）から成績評価を行う。評価に際しては、ルーブリックを使用する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：「茨城大学での学修の手引きー「大学入門ゼミ」から始めよう」 参考書：①「スタディスキルズ・トレーニングー大学で学ぶための25のスキル」吉原恵子他著、実教出版、1200円②「大学学びのことはじめー初年次セミナーワークブック」佐藤智明他著、ナカニシ出版、1900円③「知へのステップアップー大学生からのスタディ・スキルズ」上村和美他著、クロシオ出版、1800円
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1206	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(音楽)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	田中 宏明, 谷川 佳幸, 山口 哲人, 藤田 文子 (Yoshiyuki TANIGAWA)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

音楽を学ぶ意味

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

音楽、音楽科教育、音楽学、作曲、ピアノ、声楽、自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本講義の第1回は、Teams を利用したオンライン講義とする。

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)(谷川)、大学という学修・生活環境における自由と責任効果的な自己紹介について

第2回：高校から大学への「学びの転換」(谷川)

グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据えて学ぶ。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法(山口)

効果的なディスカッション、効果的なプレゼンテーションについて

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法：「学習の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する(藤田)

「卒業研究のテーマを考える」とした場合の下準備に関する議論

第5回：図書館の活用(田中)

第6回：音楽教育を学ぶ意味①(藤田)

学校で行われる音楽科教育と社会教育で行われる音楽教育との違いなどについて考え調べる。

第7回：作曲を学ぶ意味(山口)

音楽における創作とは何かについて考え調べる。

第8回：音楽学を学ぶ意味(山口)

音楽学を学ぶ意味について検討する。

第9回：器楽（ピアノ）を学ぶ意味①（田中）

音楽教師として必要な実技（特にピアノから）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第10回：器楽（ピアノ）を学ぶ意味②（田中）

音楽教師として必要な実技（特にピアノから）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第11回：声楽を学ぶ意味①（谷川）

音楽教師として必要な実技（特に声楽から）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第12回：声楽を学ぶ意味②（谷川）

音楽教師として必要な実技（特に声楽から）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第13回：音楽教育を学ぶ意味②（藤田）

音楽教師に必要な教師力とはなにかについて考え調べる。

第14回：音楽教育を学ぶ意味③（藤田）

音楽教師に必要な教師力とはなにかについて考え調べる。

第15回：まとめ・課題レポートについて（谷川）

【授業外学習】

（1）各授業回で取り扱う内容について、授業までに読んでおくものや聞いておく作品は、先の授業内で知らせると同時に音楽科ボードに掲示するので必ずチェックし、分からない用語などは事前にテキスト・参考書より調べておくこと。各回の授業外学習に要する時間は90分程度目安とする。

（2）実際に音を出して演習する回（第9、10、11、12回）があるので体調管理が大切である。

（3）常に音について意識を持ち、普段の生活の中で音楽について分析する姿勢を持っていることが必要である。

【アクティブ・ラーニング】

（1）第1～8、13、14回ではソクラテス式問答法を使い互いに意見を交わしながら授業を進める。また、映像資料を活用した学習も行う。

（2）毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

オムニバス授業のため、すべてに出席するように留意すること。遅刻3回で欠席1回とする。授業開始から30分までを遅刻とする。各分野の授業担当者の日程上、授業計画の順と異なる場合もあるが、その際はガイダンス時に知らせる。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。オフィスアワーは教員ごとに異なるので、授業科目一覧で確認のこと。

なお、新型コロナウイルス感染症対応の活動基準に応じ、授業計画や成績評価方法等を変更する場合がある。

情報端末の活用

・授業内でPCを使用することがある。

・15回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標を十分に達成し、極めて優れた学修成果を上げている。

A：80点以上90点未満 到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。

B：70点以上80点未満 到達目標と学修成果を概ね達成している。

C：60点以上70点未満 合格と認められる最低限の到達目標に届いている。

D：60点未満 到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

評価に際しては、ルーブリックを使用する。

成績の評価方法/Grading

3分の2以上の出席がないと評価の対象とならない。16回目の期末試験は実施しない。評価は、授業での活動状況（40%）と課題レポート（60%）により行う。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	上村和美、他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

参考書3

書名	音楽の文書セミナー
著者名	久保田慶一
出版社	音楽之友社
出版年	
ISBN	
教材費	2200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎

課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1207	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(美術)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	甲斐 教行, 片口 直樹, 小口 あや, 島田 裕之, 島 剛, 齋藤 芳徳, 向野 康江 (Noriyuki Kai, 島剛)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

美術教育実践ゼミ

授業の概要/Course Overview

茨城大学での学修への導入を図る。学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。美術選修における全授業科目の出発点として、美術特有の考え方や技法の基本的事項を確認しつつ、美術館見学を通じて茨城の美術について実地に学習し、美術教育を実践する基本的な知見を培う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、グループディスカッション、美術教育、美術研究、茨城の美術史、茨城の作家

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につけることができる。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につけることができる。
- ・美術や美術教育に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につけ、教員養成課程の視点で知識と理解の基盤を認識できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本講義の第4回、第5回、第11回は、Teamsを利用したオンライン講義とする。

1.シラバスを用いたガイダンス(全教員)

- ・担当教員紹介及び授業スケジュール等の確認(全教員)
- ・茨城大学での学修について 高校から大学への「学びの転換」～「聞く」「話す」に関する技法と作法『茨城大学での学修の手引き』をもとに解説する(1年担任)。

2.プレゼンテーションの実践(1年担任)

前回の解説を受けて、与えられたテーマでプレゼンテーションを行う。

3.「読む」、「書く」に関する技法と作法(小口)

- ・美術書の講読とレポートの書き方 美術に関わる文章を講読し、その内容についてのまとめ方を学習する。まとめた文章は発表により教員と学生両者による講評や添削を受ける。『学修の手引き』を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説を受ける。

【授業外学習】授業で学んだことを生かし、美術に関するレポート①を書く。

4.美術研究と図書・資料について(向野)

- ・図書館の活用について(VTR30～45分)
- ・図書と資料に関する演習 美術研究のための図書と資料の検索方法について実践を通して修得する。研究における資料の検索法、利用法を実地に学ぶことに加え、様々なメディアを活用して資料収集し結果をまとめることを学習する。

5.茨城の美術(絵画と彫刻、岡倉天心と五浦の作家たちについての概説)(甲斐)

・講義：高等学校までの美術学習内容を復習し、茨城の美術作家に関する既習内容をまとめる。まとめた内容はグループ毎に発表する。発表を受け、茨城県の近代美術史について絵画と彫刻を中心に、概観、解説する。

6.～7. 茨城県天心記念五浦美術館、茨城大学五浦美術文化研究所見学（片口）

既習の茨城の美術について、2ヶ所の見学地でのフィールドワークにより知見を深める。鑑賞する展覧会は見学日程による。

【フィールドワーク】前回の授業でまとめた見学要点を元に現地（北茨城市五浦）において学修する。

8.～9. 茨城県近代美術館見学（島田）

既習の茨城の美術について、茨城県近代美術館の常設展示により知見を深める。鑑賞する展覧会は見学日程による。

【フィールドワーク】前回の授業でまとめた見学要点を元に茨城県近代美術館において学修する。学修の結果は講義や五浦での見学内容と合わせ、見学レポート②として各自まとめて提出する。

10.美術教育研究と教員について 美術教育編（小口）

・講義：美術教員にとっての美術教育研究の位置づけと意義について、専門領域の実例によって学修する。

11. 美術史研究と教員について 美術史編（甲斐）

・講義：美術教員にとっての美術史研究の位置づけと意義について、専門領域の実例によって学修する。

12. 作品制作と教員について 絵画編（片口）

・講義：美術教員にとっての制作研究の位置づけと意義について、専門領域の実例によって学修する。

13. 作品制作と教員について 彫刻編（島）

・講義：美術教員にとっての制作研究の位置づけと意義について、専門領域の実例によって学修する。

14. 作品制作と教員について 工芸編（齋藤）

・講義：美術教員にとっての制作研究の位置づけと意義について、専門領域の実例によって学修する。

15.まとめ（全教員） 大学入門ゼミを受講する前と後での各自の内面的変化をテーマにディスカッションする。ディスカッションによる発見内容はグループでまとめ発表する。学習の結果はまとめレポート③として各自まとめて提出する（1年担任）。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。授業1～4においては、教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

授業5～9ではフルドワークを含めて「茨城の美術」に関して学習する。参考書「茨城県造形教育研究会編『美術資料』」をもとに、高等学校までの既習内容の復習と未修内容の確認をすること。また、学習後は積極的に美術館やギャラリーに出向き、美術作品を専門家の視点で鑑賞し、茨城の美術に留まらず美術に関する視野を広げていくことを心掛けること。

授業10～14では、美術分野への取り組み方について学習する。授業10・11においては美術を研究することとその方法（調査と文章表現）について学習する。授業12・13・14においては作品を制作することと美術教員という職業との関係について学習する。これらの学習内容は、大学入門ゼミ以外の専門科目（理論・研究・実技）の授業を受講する際に常に意識しておくことが必要である。

履修上の注意/Notes

- 1.グループワーク、学外での授業見学等を含む授業であり、欠席すると学習内容の修得や提出物に大きく影響するので注意すること。
2. 各教員の開講数が少ないオムニバス授業なので欠席はできるだけ避けること。遅刻は3回で欠席1回とする。特段の理由がないかぎり20分以上の遅刻は認めない。
3. 授業ごとに復習として疑問点や質問をカードに記入したり、授業内容に応じてレポートの提出が課される場合もある。
4. オフィスアワーは各教員によって違うので、確認してから対応すること。
5. 9～11の五浦での美術館等見学については、大学マイクロバスを用意するので交通費は不要である。

情報端末の活用

授業内でPCを使用する場合がありますので、教員の指示に従うこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。

D : 60点未満

到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ワークシート」(20%) ②数回の課題レポートおよび見学レポート(20%) ③数回の授業内での口頭発表(20%) ④期末レポート(40%) により行う。評価に際しては、ルーブリックを使用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き―「大学入門ゼミ」から始めよう―
著者名	茨城大学全学教育機構
出版社	茨城大学
出版年	
ISBN	
教材費	

備考	教科書：『茨城大学での学修の手引き―「大学入門ゼミ」から始めよう―』 参考書：茨城県造形教育研究会編『美術資料』秀学社 750円
----	---------------------------------------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	美術資料
著者名	茨城県造形教育研究会編
出版社	秀学社
出版年	
ISBN	
教材費	750

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input checked="" type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

小学校・中学校・高等学校現場における教諭経験がある教員3名が、その経験を活かして大学における美術の学修のあり方や美術教員にとっての制作・研究活動について講義する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB1208	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(保体)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	中嶋 哲也, 吉野 聡, 富樫 泰一, 勝本 真, 上地 勝, 大津 展子, 篠田 明音 (Nakajima Tetsuya, Satoshi Yoshino, TOGASHI Taiichi, MAKOTO KATSUMOTO, Masaru UEJI, akane shinoda)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

健康科学・スポーツ科学入門

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的・協働的な学修、キャリア、グローバル化、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身に付ける
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身に付ける
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付ける

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回:【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任(渡邊)。
【授業外学習】効果的な口頭による自己紹介(時間制限がある場合)と文書による自己紹介(文字制限がある場合)について準備すること。
- 第2回:【授業内容】高校から大学への「学びの転換」(大津)
【授業外学習】4年間の履修計画について議論するために、在学中の目標と卒業後の進路についてまとめておく。
- 第3回:【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法(大津)
【授業外学習】効果的なディスカッションやプレゼンテーションのポイントをまとめておく。
- 第4回:【授業内容】図書館の活用(篠田)
【授業外学習】大学図書館の活用方法を調べておく。
- 第5回:【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法(吉野)
【授業外学習】「学習の手引き」の剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為のページを確認しておく。
- 第6回:【授業内容】キャリア形成について考える(吉野)
【授業外学習】尊敬できる人物のキャリアについて調べ学習を行う。
- 第7回:【授業内容】学校部活動の在り方を考える(勝本)
【授業外学習】部活動のメリット・デメリットについて調べておく。
- 第8回:【授業内容】世界のスポーツについて考える(勝本)

【授業外学習】スポーツのグローバルな現状と課題を調べておく。

第9回：【授業内容】ボランティアについて考える（渡邊）

【授業外学習】様々なボランティア活動について調べておく。

第10回：【授業内容】地域スポーツの活性化について考える（富樫）

【授業外学習】地域スポーツの現状や課題について調べておく。

第11回：【授業内容】身体の賢さについて考える（篠田）

【授業外学習】運動実践場面における、「わかる」と「できる」について考えておく。

第12回：【授業内容】新型コロナウイルスについて考える（上地）

【授業外学習】新型コロナウイルスに関する情報を集める。

第13回：【授業内容】学校防災について考える（富樫）

【授業外学習】学校防災に関する情報を集める。

第14回：【授業内容】大学で身に付けるべき資質・能力について考える（中嶋）

【授業外学習】これまでに学修してきたことを踏まえ大学で身に付けるべき能力について考えをまとめておく。

第15回：【授業内容】まとめ（中嶋）

【授業外学習】これまでの学修内容を振り返っておくこと。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は 90 分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第6～15回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、議論（シンク・ペア・シェア/ラウンドロビン/ディスカッション）する。

(2) また、各回の授業終了時は、Office 365のFormsを使って理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブラーニングに積極的に取り組むこと。遅刻は原則として認められない。オフィスアワーについては、教育学部の『授業科目一覧および授業時間割』を参照のこと

・各教員のメールアドレスは、教育学部の『授業科目一覧および授業時間割』を参照のこと

・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業実施方法等を変更する可能性があります。

情報端末の活用

・講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

・課題レポートについては、教務情報ポータルシステム等を通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。評価は、①授業時の活動状況（30%）、②1回の課題レポート（30%）、③プレゼンテーション（40%）により行う。これらの評価はルーブリックを使用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子、他著
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -
著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
著者名	上村和美、他著
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1209	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	水1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(技術)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	榎 守, 佐々木 忠之, 工藤 雄司, 野崎 英明, 大西 有, 白坂 高司, 川路 智治 (Sakaki Mamoru, KUDO Yuji, Nozaki Hideaki, ONISHI Tamotsu, USUZAKA Takashi, Tomoharu Kawaji)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

技術教育入門

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(技術教育)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ・第1回 シラバスを用いたガイダンス, 教師の立場と職業的な責任, キャリアデザイン (大西)
【授業内容・アクティブ・ラーニング】 [オンライン授業 (Teams)] 教育公務員に関する法律により, 教師にはどのような法的な責任と役割があるかについて概説する。また, 学校を運営する上で関係する法律や学校・教師の社会的な使命と責任についても概説し, ディスカッション (ライティング・ディスカッション) を通して内容の理解を深める。
【授業外学修】 関連する教育法規について内容を確認する。技術科が義務教育 (中学校) に存在するために必要な法律について調査する。
- ・第2回 技術科教育の内容の導入 (大西)
【授業内容・アクティブ・ラーニング】 [オンライン授業 (Teams)] 技術科教育の位置付けや内容, 指導する意義等について概説する。内容の指導に当たり配慮する事項等についても概説し, ディスカッション (ライティング・ディスカッション) を通して内容の理解を深める。
【授業外学修】 Society5.0の時代を迎えるに当たり, 技術科の学習内容の変化についてまとめる。
- ・第3回 大学における自由と責任, 高校から大学への「学びの転換」 (白坂)
【授業内容・アクティブ・ラーニング】 『茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -』の第1章と第2章を使用する。具体的には, 「(1) 大学における学習及び学生生活に関する情報発信と自己責任, 研究倫理の基本, 授業へ出席する際の注意」, 「(2) 茨城大学における教育, アクティブ・ラーニング, 学修の実質化」についてディスカッション (ピア・インストラクション) を取り入れて授業を行う。授業の最後に, ミニツッパーパーを書き, 本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容を復習し、レポート（A4で2枚、各章ごとに1枚）にまとめる。レポートは次回の授業までにメールに添付して提出すること。

・第4回 材料と加工の技術（木材）の内容の導入（臼坂）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における材料と加工の技術（木材）について概説する。また、中学校で教えるために、大学でどのような知識と技能を身に着ける必要があるか解説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容を復習し、レポート（A4で1枚）にまとめる。レポートは次回の授業までにメールに添付して提出すること。

・第5回 図書館ガイダンス・図書館の有効活用法についてのディスカッション（川路）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】[オンデマンド授業]図書館ガイダンスに参加し、図書館の有効な活用方法について学ぶ。

【授業外学修】本時の授業内容を復習するとともに、実際に図書館へ行き利用方法を確認しておくこと。

・第6回 材料と加工の技術（金属・プラスチック、丈夫な構造）の内容の導入（野崎）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における材料と加工の技術（金属・プラスチック、丈夫な構造）の内容について簡単な実験を交えて概説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容の復習と次時の予習を行い、webフォームにて提出すること（フォームの詳細は授業時に説明する）。

・第7回 「読む」・「書く」に関する技法と作法（野崎）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。

その後、レポートを書くための情報の収集・整理の方法（「読む」に相当）、レポートの一般的な書式等を紹介する。授業の最後にミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容の復習を行い、webフォームにて提出すること。

・第8回 エネルギー変換の技術の内容の導入（榎）

【授業内容】中学校技術科におけるエネルギー変換の内容について考察する。

【授業外学修】高等学校で学習したエネルギーと仕事の内容を復習しておくこと。

・第9回 「聞く」・「話す」に関する技法と作法（口述によるプレゼン）（榎）

【授業内容】[オンライン授業（Teams）] 授業では技術を題材に各自プレゼンテーションをTeams上で行う。プレゼンについて各自考察する。

【授業外学修】3分間の発表内容を考え、発表用のパワーポイントを作成しておくこと。

・第10回 情報の技術の内容の導入（工藤）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における情報の技術の内容について簡単な演習を交えて概説し、世界の技術教育などを題材にしたプレゼンテーションを行う。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】高等学校で履修した教科「情報」において学習したプレゼンテーションについて復習し、情報の技術の内容がどのように身の回りの生活に利用されているかを調べ、次回のプレゼンで使用するプレゼン資料に利用できる素材を収集しておくこと。

・第11回 「聞く」・「話す」に関する技法と作法（PPを使ったプレゼン）（工藤）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』の第3章を使用する。『自分の理想の技術教育』という題のプレゼンテーションを、効果的なプレゼンの技法と作法に留意して作成する。グループ別プレゼンを行い、相互評価する活動を通して効果的なディスカッション（パネル・ディスカッション）についての授業を行う。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】予習として『自分の理想の技術教育』という題のプレゼンテーションを作成しておくこと。復習として、ディスカッションを通して見てきた自分のプレゼンの善し悪しを考察し、より効果的なプレゼンになるようプレゼン資料を修正し、完成した作品を次回授業までにメール添付にて工藤まで提出する。

・第12回 理工学とSTEM教育・技術教育（佐々木）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】科学技術創造立国として世界をリードすることが求められる我が国にとって、理工学分野の人材育成は重要な課題になっている。このため、技術教育にも理工学分野の面白さを伝え、将来的にこの分野を目指す人材を増やすことが求められ

る。授業では工学の研究開発やものづくりの面白さや広がり、生活への影響などについて考える。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】学習内容に関連して興味を持った内容について調べる。

・第13回 ものづくりと情報技術（佐々木）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】3DプリンタやCAD（Computer aided design：コンピュータ支援設計）のように現在ではものづくりと情報技術は密接な関係を持っており、この関係は今後益々密接になり一般化していくと思われる。授業では、ものづくりにおける情報技術の現状について概説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】学習内容に関連して興味を持った内容について調べる。

・第14回 エネルギー変換の技術（機械分野）の指導内容と年間指導計画（川路）

【授業内容】中学校技術科におけるエネルギー変換（機械分野）の指導内容について概説する。また、年間指導計画について概説し、演習として年間指導計画の立案を行う。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】第15回のプレゼンテーションの準備をすること。テーマは「授業の導入」とする。発表の時間はひとり3分とする。

・第15回 「聞く」・「話す」に関する技法と作法（口述によるプレゼン）（川路）

【授業内容】各自3分間のプレゼンテーションを行う。テーマは「授業の導入」とする。授業では、各自のプレゼンについて相互評価を行う。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、内容を確認する。

【授業外学修】プレゼンテーションで使った資料を修正し、修正したデータを川路へメールで送信する。

なお、各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とする。遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとする。担当教員のオフィスアワーは「授業科目一覧および授業時間割」に記載のオフィスアワー一覧表を参照のこと。

情報端末の活用

・パワーポイントを使用したプレゼンテーションなどを行うので、PCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

・16回目の期末試験は実施しない。
・評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ライティング・ディスカッション」、 「ミニツツペーパー」15回（50%）、②課題レポート3回（30%）、③プレゼンテーション2回（20%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリック（注※）で評価する。

※ルーブリックは授業内で配付して、学生と共通理解を図る。

教科書/Textbook(s)

備考	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」（入学時配付済）
----	------------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

中学校あるいは高校における教諭経験のある教員もいるので、その経験を活かして理論と実践の行き来について考えたり、生徒の実態に応じた具体的な指導内容と方法について考えたりする授業も行う。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1210	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(家庭)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	佐藤 裕紀子, 数井 みゆき, 木村 美智子, 野中 美津枝, 石島 恵美子, 西川 陽子 (Kazui Miyuki, Nonaka)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

生活科学の視点

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、生活科学、コミュニケーション、キャリア、グローバル化

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:【授業内容】シラバスを使用したガイダンス(佐藤裕紀子)

【授業外学修】自分なりの大学生活について考えて、自身のアピールポイントなどを書き出しておく。

第2回:【授業内容】高校から大学への「学びの転換」:グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据え、大学での学修をどのように進めるか、4年間の学修計画を考える。(佐藤裕紀子)

【授業外学修】1回目の授業で扱った「茨城大学での学習の手引き」の箇所を振り返るとともに、2回目用の予習を行う。

第3回:【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法:自身を取り巻く家庭や社会の問題について科学的視点に立ち分析するとはどういうことかをテーマにグループディスカッションを行い、人の話を聞きそれを受けて自分の考えを述べるなかで、他者の考えを取り入れ自分の考えを深める方法を学ぶ。(佐藤裕紀子)

【授業外学修】2回目の授業で扱った「茨城大学での学習の手引き」の箇所を振り返るとともに、3回目用の予習を行う。

第4回:【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法:第3回目に学んだ内容について、テーマを設定し、科学的視点に立ちながら、レポートを構想する。「学習の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について理解する。(佐藤裕紀子)

【授業外学修】第5回目に提出するレポートを作成する。

第5回：【授業内容】図書館の活用:課題レポートや卒業研究などで必要とされる文献検索の方法について、大学図書館を活用して学ぶ。（佐藤裕紀子）

【授業外学修】説明を受けたことについて、自分のパソコン等から図書館へアクセスし、実際にどのように使えるかを確認する。

第6回：【授業内容】家庭科教育学の概要(野中美津枝)

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第7回：【授業内容】家庭科教育と調理学について（石島恵美子）

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第8回：【授業内容】家庭経営学の概要（佐藤裕紀子）

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第9回：【授業内容】食物学の概要（西川陽子）

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第10回：【授業内容】被服学の概要（木村美智子）

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第11回：【授業内容】保育学の概要（数井みゆき）

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第12回：【授業内容】プレゼンテーションの方法(1):教科書を用いてプレゼンテーションの基礎を学び、グループに分かれ、家庭科における各分野（家庭経営、食物、被服、住居、保育）の教育の必要性について議論し、プレゼンテーションの企画案を立てる。（佐藤裕紀子）

【授業外学修】各分野での学びを復習しておき、本時の予習を事前の説明等に合わせて行う。

第13回：【授業内容】プレゼンテーションの方法(2):前回の企画案をもとに、各グループごとにスライドやレジメを作成してプレゼンテーションの準備をする。（佐藤裕紀子）

【授業外学修】プレゼンテーションの内容を復習しておき、本時の予習を事前の説明等に合わせて行う。

第14回：【授業内容】プレゼンテーションの方法(3):各グループごとにスライドやレジメを用いて実際にプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーション手法についてディスカッションをし、理解を深める。（佐藤裕紀子）

【授業外学修】プレゼンテーションの内容ややり方を復習しておき、本時の予習を事前の説明等に合わせて行う。

第15回：【授業内容】自分の学びについての発表、まとめ（佐藤裕紀子）

【授業外学修】この授業全体を通じた学びについて、数分のスピーチ用の原稿を作成しておく。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

第1～4、12～14回目にはそれぞれのトピックに関するディスカッションが入っている。

第6～11回目の各専門分野に関しては、それぞれレスポンスペーパーに記入し、学びを振り返り考察を行う。

第12～14回では、プレゼンテーションが必須になっている。

第15回は、2、3分のスピーチ形式のプレゼンテーションを行う。

履修上の注意/Notes

- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
- ・遅刻については、やむを得ない場合に授業開始後30分まで認める。
- ・他教員のオフィスアワーは、教育学部の『授業科目一覧および授業時間割』を参照のこと。

情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータルシステムでも事前配布するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・課題の提出等は、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。
- ・15回目（予定）では、授業評価を行うため、必ず、PC,スマートフォンなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

(成績の評価方法参照のこと)

成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。

- ①ディスカッションやプレゼンテーションなど授業時の学修への取り組み姿勢（30点）
 - ②授業で課した課題レポート（40点）
 - ③プレゼンテーション（30点）
- とし、ルーブリックでの評価方法をもとに最終的な成績とする。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	「スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -」
著者名	吉原恵子
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	
教材費	1222

参考書2

書名	「大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -」
----	---------------------------------

著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
著者名	上村和美、他著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	
教材費	1980

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1211	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P（教育実践）	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員（ローマ字表記）	佐藤 環				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学での学びについて

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野（学部・学科等）に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回～第5回の内容を全学共通部分とする。ただし、人文、教育、農は5回以上とする。理、工は5回とする。下記に記載の第5回：図書館の活用は、機構側で調整するため第5回とはかぎらない。図書館ガイダンスのスケジュールをもとに具体的な授業回に記載を変更してもよいし、とりあえず第5回に記載しておき、授業計画の末尾に注（※）をつけても構わない。

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（自己紹介を含む）

第2回：高校から大学への「学びの転換」（4年間の履修計画について、学外での学修（留学、インターンシップ、ボランティア等）をどう活用するか）

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法（効果的なディスカッションについて、効果的なプレゼンテーションについて）

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法（卒業論文のテーマを考える際の下準備、「学習の手引き」をもとに剽窃・盗用・捏造・改ざんなどについて学ぶ）

第5回：図書館の活用（図書館ガイダンス45分程度・残りは講義）

図書館ガイダンスの日程はクラスごとに異なるので、授業中の指示に従ってください。

第6回：茨城大学水戸キャンパスを知る（キャンパス・ツアー）

第7回：教育学の諸相（理論と実践について考える）

第8回：レポート・論文の書き方①（作成上の基礎）

第9回：レポート・論文の書き方②（文章要約について）

第10講：レポート・論文の書き方③（文章要約の実践）

第11講：プレゼンテーションの基礎①（テーマ探求を含む）

第12講：プレゼンテーションの基礎②（資料作成）

第13回：プレゼンテーション実演と相互評価①（グループ1～3）

第14回：プレゼンテーション実演と相互評価②（グループ4～6）

第15回：プレゼンテーション実演と相互評価③（グループ7～9）

【授業外学修】

- (1) 講義資料は manaba にアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読むことは当然だが、第8～10回については、教科書「茨城大学での学修の手引き」によりレポートについて調べておくことが望ましい。
- (3) 各回の授業外学修に要する時間は 90 分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第13～15回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。
- (2) 毎回の授業終了時は、formを利用して理解度の確認を行う。
- (3) パワーポイントの操作について第11講までに学習しておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

前事後に連絡のない遅刻・欠席は認められない。

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
学修上、生活上の相談がある場合は所定のオフィスアワーにA棟408室へ訪問すること。

情報端末の活用

- (1) 講義資料があるときは manaba を通じて事前配信する。
- (2) 毎回の授業時にはPCを持参すること。
- (3) 課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：「学修の手引き」などに掲げられた智識・技能について基本的な知識と考え方を十分に理解し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：「学修の手引き」などに掲げられた智識・技能について理解し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：「学修の手引き」などに掲げられた智識・技能について概ね理解し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：「学修の手引き」などに掲げられた智識・技能について最低限の理解をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：「学修の手引き」などに掲げられた智識・技能について理解できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

定期試験は実施しない。評価は各回の作成物・提出物：50%、プレゼンテーション（相互評価含む）：50%とする。

*プレゼンテーションに対する評価は、実演状況に加え、グループでの役割、視聴した学生が行った評価を加味する。

*評価に関してはルーブリックを用いる。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新版大学生のためのレポート・論文術
著者名	小笠原喜康
出版社	講談社
出版年	2009
ISBN	9784062880213
教材費	814

参考書2

書名	マンガでわかる 大学生のためのレポート・論文術
著者名	小笠原喜康、近藤たかし
出版社	講談社
出版年	2020
ISBN	9784065206591
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1212	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	月4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P（特別支援）	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員（ローマ字表記）	新井 英靖				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

特別支援教育入門

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、調査活動、グループディスカッション、特別支援教育

到達目標/Learning Objectives

<ul style="list-style-type: none"> ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。 ・自らの専門分野（学部・学科等）に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。 ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任《自己紹介と今後の学修への取り組み》【アクティブラーニング手法：口頭発表，グループディスカッション】
第2回：高校から大学への「学びの転換」《4年間の履修計画》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション】
第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法《特別支援学校の教師を目指して》【アクティブラーニング手法：口頭発表，グループディスカッション，リフレクティブ・ジャーナル】
第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法《特別支援教育に関する興味・関心》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，リフレクティブ・ジャーナル】
第5回：図書館の活用《知識を深める方法》【アクティブラーニング手法：調査活動】
第6回：特別支援教育に関わるグループ調査①《グループ編成と課題設定》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，リフレクティブ・ジャーナル】
第7回：特別支援教育に関わるグループ調査②《課題解決の方法》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，リフレクティブ・ジャーナル】
第8回：特別支援教育に関わるグループ調査③《資料収集と討議》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，調査資料収集，リフレクティブ・ジャーナル】
第9回：特別支援教育に関わるグループ調査④《収集された資料の整理》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，資料まとめ，リフレクティブ・ジャーナル】
第10回：特別支援教育に関わるグループ調査⑤《まとめ》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，資料まとめ，リ

フレクティブ・ジャーナル】

第11回：調べたことをまとめる方法【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，資料まとめ，リフレクティブ・ジャーナル】

第12回：グループによる資料作成【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，PBL，資料作成，リフレクティブ・ジャーナル】

第13回：グループごとの発表と討議①【アクティブラーニング手法：プレゼンテーション，グループディスカッション，リフレクティブ・ジャーナル】

第14回：グループごとの発表と討議②【アクティブラーニング手法：プレゼンテーション，グループディスカッション，リフレクティブ・ジャーナル】

第15回：まとめ【アクティブラーニング手法：グループディスカッション，リフレクティブ・ジャーナル】

【授業外学修】

(1)授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後に学生同士で情報を共有しながらディカッションすることでさらに理解を深める。

(2)授業で扱ったトピックスに関するニュースや記事とそれに対する自分の意見について文書としてまとめておく。

(3)「茨城大学での学修の手引き-『大学入門ゼミ』から始めよう-」を使用して，剽窃・盗用・捏造・改ざんなど，レポート作成時の不正行為について解説する。

(4)各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

授業時間外の主体的な学修に取り組むこと。

大幅な遅刻は他の学生の迷惑になるので、避けること。

担当教員のメールアドレス、オフィス・アワーについては、初回のガイダンスで連絡する。

情報端末の活用

第8回～15回ではグループワークでPCを使用するため、グループで最低1台、持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について十分に理解し，グループワークやプレゼンテーションにその成果が十分に反映されている。

A：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について理解し，グループワークやプレゼンテーションにその成果が反映されている。

B：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について概ね理解し，グループワークやプレゼンテーションにその成果が概ね反映されている。

C：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について最低限理解しており，グループワークやプレゼンテーションにその内容が反映されている。

D：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について理解ができておらず，グループワークやプレゼンテーションも不十分である。

成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。

評価は①授業後の振り返りを記載した学修の記録，グループ活動での参加状況とプレゼンテーション（50%），③課題レポート（50%）により行う。

なお、評価に際しては、ルーブリックを使用する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	大学生のためのレポート・論文術
著者名	小笠原喜康 著
出版社	講談社
出版年	2018
ISBN	4065135028
教材費	800

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1213	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P（養護教諭）	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員（ローマ字表記）	竹下 智美, 廣原 紀恵, 瀧澤 利行, 古池 雄治, 石原 研治, 青柳 直子 (Tomomi Takeshita, Takizawa Toshiyuki, ISHIHARA Kenji, Naoko Aoyagi)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

養護教諭論

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。学生が、自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づけるために、学生間のディスカッションや調べ学修を通じて複雑な養護教諭の職務をひもといていき、養護教諭と自己イメージとの接近を図る。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グループディスカッション、養護

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任（竹下）[オンライン授業(Teams 及び manaba)]

(アクティブ・ラーニング手法) コミュニケーション・マナーについて、対教員、対先輩、対アルバイト先上司の対応課題（宿題を忘れた等）について、グループでディルカッション後、発表する。入学動機・大学生生活の希望と不安等をワークシートに記入後、5分間の制限を与えてペアで語り合う。相手を変えて同様に語り合う。

第2回：自己紹介（竹下）[オンライン授業(Teams 及び manaba)]

(アクティブ・ラーニング手法) 一人2分で口頭で自己紹介を行う。

第3回：高校から大学への「学びの転換」（竹下）

(アクティブ・ラーニング手法) 6人グループになり、①4年間の履修計画を模造紙に作成する。パネルに貼り、2人を除いて、他のパネルを見にいき、意見交換して、グループに戻り、シェアする。②「学外での学修（留学、インターンシップ、ボランティア等）をどう活用するか」をグループごとに議論する

第4回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法（竹下）

(アクティブ・ラーニング手法) 伝える力に関する文献の購読し、「聞く」「話す」ことについて理解を深め、他人とのコミュニケーションに必要な"基本的"心構についてディスカッションする。

第5回：図書館の活用（竹下）

（講義・アクティブ・ラーニング手法）図書館ガイダンスの説明（45分）を聞き、その後残り45分は自分の誕生日の出来事を調べ学習する。

第6回目：「読む」、「書く」に関する技法と作法（竹下）

（アクティブ・ラーニング手法）「学修の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。「演習」課題の論説を読ませ、要約させ、3人グループになり、意見交換する。さらに、論説から学んだことをミニレポートとして記述させる。数人に発表させ、助言する。

第7回：養護教諭の資質（企画能力について）（全教員）

第8回：養護教諭の資質（調整能力について）（全教員）

第9回：養護教諭の資質（実行力について）（全教員）

（アクティブ・ラーニング手法）7回～9回は、涸沼合宿を行う。合宿に向けて全員で協力し、レクレーションその他の企画をたて、必要な役割を分担し準備する。

第10回：養護教諭の専門性を考える（生理学の視点から）石原）

第11回：養護教諭の専門性を考える（臨床医学の視点から）（古池）

第12回：養護教諭の専門性を考える（保健教育の視点から）（青柳）

第13回：養護教諭の専門性を考える（学校看護の視点から）（廣原）

第14回：養護教諭の専門性を考える（公衆衛生の視点から）（瀧澤）

第15回：（竹下）養護教諭の専門性を考える（養護の視点から）（竹下）および学習のまとめ

（アクティブ・ラーニング手法）「グループディスカッション」本授業を通して学んだことと今後の課題をワークシートに記述し、グループになりディスカッションする。グループごとに発表し、意見交流を図る。

【授業外学修】

（1）1回～6回目は、「茨城大学での学修の手引き」を前に読んでおくこと、また、授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後に学生同士で情報を共有しながらディカッションすることでさらに理解を深める。

（2）11回～14回は、各回事前に配布された配付資料を事前に読み分らない用語などは、あらかじめ調べておくこと。授業で扱ったトピックスに関するニュースや記事とそれに対する自分の意見をまとめておく。

（3）各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

本授業は、毎回クラスの仲間とのディスカッションを行う。自分の思い、考えを自分の言葉で他者に伝えることを意識すること。その後、ディスカッションをとおしてさらに深まった考えを授業終了前に記述する時間を設ける。

また、7回～9回目は（6月に1泊2日）の涸沼合宿を行う予定である。費用が約1万円かかるので準備しておくこと。

オフィスアワー：木曜（昼休み）事前にアポを取ってください。

遅刻は、20分以上を遅刻とカウントし、3回に1回欠席とする。

情報端末の活用

「授業内でPCを使用」

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A: 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B: 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C: 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
D: 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

ルーブリックを使用する。

16回目の期末試験は実施しない。

評価は、①「ワークシート」「リアクションペーパー」(20%) ②ディスカッションの参加状況(40%) ③プレゼンテーション等の課題および週泊合宿における企画力、実行力(40%)とする。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新訂養護概説
著者名	三木とみ子
出版社	ぎょうせい
出版年	2018
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB1301	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(数学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	渡邊 辰矢, 下村 勝孝 (Katsunori SHIMOMURA)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

数学入門I

授業の概要/Course Overview

最初の5回では、茨城大学での学修への導入を図る。ここでは、これから専門分野を学ぶために必要な論理的に考え表現する手法を身につける。その後は、数学・情報数理分野の基礎となる微分積分と線形代数を演習形式で学習する。微分積分については高校で学習した内容の復習から始め、テイラー展開や広義積分などが無理なく理解できるようにする。線形代数については、行列の基本演算から行列式の内容まで理解できるようにする。発表による演習形式を通して、コミュニケーション力と表現力の基礎を身につける。

キーワード/Keyword(s)

茨城大学での学修、命題、論理記号、集合、微分、積分、テイラーの公式、行列、行列式、基本変形

到達目標/Learning Objectives

- (1) 茨城大学での学修に必要な、論理的な技法や作法が身につく。
- (2) 初等関数を含む式の微分や積分の計算ができる。
- (3) 行列の基本演算や行列式の計算ができる。
- (4) 自分の解答を分かりやすく説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境
 第2回：高校から大学への「学びの転換」、大学での数学の基礎
 第3回：論理的に「話す」「考える」技法と作法
 第4回：論理的な文章を「読む」「書く」技法と作法
 第5回：図書館の活用(図書館ガイダンス)
 第6回：小テスト(論理記号や高校で学んだ微積分の復習)と解説
 第7回：微分(その1)
 第8回：微分(その2)
 第9回：写像(その1)
 第10回：写像(その2)
 第11回：行列式(その1)
 第12回：行列式(その2)
 第13回：積分(その1)
 第14回：積分(その2)
 第15回：小テスト(第12回～14回の内容)と解説

【授業外学修】

- (1) 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキスト及び関連する講義の教科書を読んでおくこと。
- (2) 高校で学んだ内容は、各自復習しておくこと。
- (3) 配布するプリントの問題はすべて解けるようになるまで何度も解き直すこと。
- (4) 自らの理解度や関心に応じて、対応する講義の教科書にある演習問題に取り組んだり、図書館にある参考書を用いて知識を広げるようにして欲しい。
- (5) 普段から教員の解説や他の受講生の発表をよく観察し、自分の発表に参考となる説明の仕方や板書の書き方等、次回の発表に向けて工夫・改善に取り組むこと。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で黒板を用いて解答の発表をしてもらう（遠隔授業の場合にはノートを撮影かスキャンして共有してもらう）。発表の内容に対して受講者全員でのディスカッションや、解説・補足等を行う。

履修上の注意/Notes

この授業は「集合入門」「微積分Ⅰ」「線形代数Ⅰ」に関連しているので、これら3つの講義を必ず履修すること。受講者の理解度に応じて演習を進めるため、授業計画内容は前後することがあります。また、関連する講義の進捗とは必ずしも一致しません。遅刻・欠席の扱い、オフィスアワーについては初回授業時に連絡します。

情報端末の活用

遠隔授業では必須となります。（遠隔授業の場合、スマホでは機能が限られるため、なるべくPCを用意してください。）対面授業の場合も、できるだけ持参してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標について高いレベルで達成されている。
- B : 到達目標についておおむね達成されている。
- C : 到達目標について最低限のレベルで達成されている。
- D : 到達目標のうち、1つ以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の授業への事前準備状況及び授業中の取り組み40%、授業時の発表30%、小テスト30%で評価します。
16回目に期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	第1回～第5回：本学で配られる「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」及び授業で配布するプリントを使用します。 第6回以降：授業でプリントを配布します。参考書は関連授業「微積分Ⅰ」と「線形代数Ⅰ」の教科書を参照して下さい。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1302	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(数学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	下村 勝孝, 渡邊 辰矢 (Katsunori SHIMOMURA)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

数学入門II

授業の概要/Course Overview

最初の5回では、茨城大学での学修への導入を図る。ここでは、これから専門分野を学ぶために必要な論理的に考え表現する手法を身につける。その後は、数学・情報数理分野の基礎となる微分積分と線形代数を演習形式で学習する。微分積分については高校で学習した内容の復習から始め、テイラー展開や広義積分などが無理なく理解できるようにする。線形代数については、行列の基本演算から行列式の内容まで理解できるようにする。発表による演習形式を通して、コミュニケーション力と表現力の基礎を身につける。

キーワード/Keyword(s)

茨城大学での学修、命題、論理記号、集合、微分、積分、テイラーの公式、行列、行列式、基本変形

到達目標/Learning Objectives

- (1) 茨城大学での学修に必要な、論理的な技法や作法が身につく。
- (2) 初等関数を含む式の微分や積分の計算ができる。
- (3) 行列の基本演算や行列式の計算ができる。
- (4) 自分の解答を分かりやすく説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境
 第2回：高校から大学への「学びの転換」、大学での数学の基礎
 第3回：論理的に「話す」「考える」技法と作法
 第4回：論理的な文章を「読む」「書く」技法と作法
 第5回：図書館の活用(図書館ガイダンス)
 第6回：小テスト(論理記号や高校で学んだ微積分の復習)と解説
 第7回：微分(その1)
 第8回：微分(その2)
 第9回：写像(その1)
 第10回：写像(その2)
 第11回：行列式(その1)
 第12回：行列式(その2)
 第13回：積分(その1)
 第14回：積分(その2)
 第15回：小テスト(第12回～14回の内容)と解説

【授業外学修】

- (1) 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキスト及び関連する講義の教科書を読んでおくこと。
- (2) 高校で学んだ内容は、各自復習しておくこと。
- (3) 配布するプリントの問題はすべて解けるようになるまで何度も解き直すこと。
- (4) 自らの理解度や関心に応じて、対応する講義の教科書にある演習問題に取り組んだり、図書館にある参考書を用いて知識を広げるようにして欲しい。
- (5) 普段から教員の解説や他の受講生の発表をよく観察し、自分の発表に参考となる説明の仕方や板書の書き方等、次回の発表に向けて工夫・改善に取り組むこと。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で黒板を用いて解答の発表をしてもらう（遠隔授業の場合にはノートを撮影かスキャンして共有してもらう）。発表の内容に対して受講者全員でのディスカッションや、解説・補足等を行う。

履修上の注意/Notes

この授業は「集合入門」「微積分Ⅰ」「線形代数Ⅰ」に関連しているので、これら3つの講義を必ず履修すること。受講者の理解度に応じて演習を進めるため、授業計画内容は前後することがあります。また、関連する講義の進捗とは必ずしも一致しません。遅刻・欠席の扱い、オフィスアワーについては初回授業時に連絡します。

情報端末の活用

遠隔授業では必須となります。（遠隔授業の場合、スマホでは機能が限られるため、なるべくPCを用意してください。）対面授業の場合も、できるだけ持参してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標について高いレベルで達成されている。
- B : 到達目標についておおむね達成されている。
- C : 到達目標について最低限のレベルで達成されている。
- D : 到達目標のうち、1つ以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の授業への事前準備状況及び授業中の取り組み40%、授業時の発表30%、小テスト30%で評価します。
16回目に期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	第1回～第5回：本学で配られる「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」及び授業で配布するプリントを使用します。 第6回以降：授業でプリントを配布します。参考書は関連授業「微積分Ⅰ」と「線形代数Ⅰ」の教科書を参照して下さい。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1304	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(物理)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	桑原 慶太郎				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

物理学ゼミナールI

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
 - ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
 - ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。
- ディプロマポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本講義の受講メンバーを見ながら、講義内容を柔軟に変更する可能性がある。

第1回：第1回：シラバスを用いたガイダンスを行う(大学入門ゼミ・物理学ゼミナールI, II, III共同)。

第2回：高校から大学への「学びの転換」

グローバル化する社会における仕事と人生のキャリアを見据えて、大学で学んでいくための4年間の履修計画についてや、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するかについてディスカッションを行う。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

効果的なディスカッションについてや、効果的なプレゼンテーションについて議論する。

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法

電磁気学の基礎的な法則に関してその理解を深めるための課題を設定し、テキスト等を用いながらディスカッションを行う。その後、教科書を用いて論文・レポートの書き方を学び、自分の考えをまとめていく。また、剽窃等行ってはならない不正行為について学ぶ。

第5回：図書館の活用

課題レポートや卒業研究で必要とされる文献検索の方法について、大学図書館を活用して学ぶ。終了後、第6回以降に行う電磁気学に関するゼミへの趣旨説明を行い、テキスト、参考書の紹介を行う。その後、グループ分け発表の進め方や準備する上での留意点等について議論する。

第6回：静電場とクーロンの法則

静電場とクーロンの法則

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第7回：電位の概念

電位の概念

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第8回：コンデンサー

コンデンサー

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第9回：電流と過渡現象

電流と過渡現象

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第10回：磁場とローレンツ力

磁場とローレンツ力

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第11回：静磁場

静磁場

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第12回：ファラデーの法則

ファラデーの法則

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第13回：誘導起電力と誘導電場

誘導起電力と誘導電場

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第14回：自己誘導起電力

自己誘導起電力

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第15回：マクスウェルによるまとめと電磁波

マクスウェル方程式

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

【授業外学修】

・第1回～第5回：

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

・第6回以降：

受講者全員がテキストを事前に予習し、授業中にディスカッションをする上での必要事項をまとめておくなど準備を行うことが必要である。また、発表者のグループは、効果的なプレゼンができるよう事前にグループで打ち合わせを行うこと。授業後は、ゼミでのディスカッション内容をもとに復習を行い、その時点で不明や疑問が発生した際は、次回のゼミで提示できるようにすること。

履修上の注意/Notes

- ・ゼミは受講者の主体的参加が重要である。よって、やむを得ない事情による場合以外は遅刻や欠席をしないよう留意すること。15分を超えるような大幅な遅刻や早退は欠席扱いとする。
- ・課題については期限を厳守すること。
- ・グループディスカッション、グループワークなどのコミュニケーションを主にしていくことにする。

情報端末の活用

- ・必要があればこれを自らのプレゼンなどに活用しても構わない。その際、事前に教員に準備のため伝えておくこと。
- ・14回目か15回目に授業アンケートを実施する予定のため、このときはPC、スマートフォン等を持参すること。
- ・必要に応じてレポートを課すこともあるが、その時はmanabaもしくはteamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・期末試験は実施しない。
- ・評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ライティング・ディスカッション」や「ミニツツペーパー」(40%)、②プレゼンテーションの内容(60%)により行う。
- ・ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	新・物理入門
著者名	山本義隆 著
出版社	駿台文庫
出版年	2004
ISBN	9784796116183
教材費	1100

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	電磁気学
著者名	横山順一著
出版社	講談社
出版年	2009
ISBN	978-4061572041
教材費	3080

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1305	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(物理)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	釣部 通				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

物理学ゼミナールII

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
 - ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
 - ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。
- ディプロマポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本講義の受講メンバーを見ながら、講義内容を柔軟に変更する可能性がある。

第1回：第1回：シラバスを用いたガイダンスを行う(大学入門ゼミ・物理学ゼミナールI, II, III共同)。

第2回：高校から大学への「学びの転換」

グローバル化する社会における仕事と人生のキャリアを見据えて、大学で学んでいくための4年間の履修計画についてや、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するかについてディスカッションを行う。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

効果的なディスカッションについてや、効果的なプレゼンテーションについて議論する。

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法

電磁気学の基礎的な法則に関してその理解を深めるための課題を設定し、テキスト等を用いながらディスカッションを行う。その後、教科書を用いて論文・レポートの書き方を学び、自分の考えをまとめていく。また、剽窃等行ってはならない不正行為について学ぶ。

第5回：図書館の活用

課題レポートや卒業研究で必要とされる文献検索の方法について、大学図書館を活用して学ぶ。終了後、第6回以降に行う電磁気学に関するゼミへの趣旨説明を行い、テキスト、参考書の紹介を行う。その後、グループ分け発表の進め方や準備する上での留意点等について議論する。

第6回：静電場とクーロンの法則

静電場とクーロンの法則

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第7回：電位の概念

電位の概念

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第8回：コンデンサー

コンデンサー

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第9回：電流と過渡現象

電流と過渡現象

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第10回：磁場とローレンツ力

磁場とローレンツ力

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第11回：静磁場

静磁場

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第12回：ファラデーの法則

ファラデーの法則

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第13回：誘導起電力と誘導電場

誘導起電力と誘導電場

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第14回：自己誘導起電力

自己誘導起電力

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第15回：マクスウェルによるまとめと電磁波

マクスウェル方程式

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

【授業外学修】

・第1回～第5回：

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

・第6回以降：

受講者全員がテキストを事前に予習し、授業中にディスカッションをする上での必要事項をまとめておくなど準備を行うことが必要である。また、発表者のグループは、効果的なプレゼンができるよう事前にグループで打ち合わせを行うこと。授業後は、ゼミでのディスカッション内容をもとに復習を行い、その時点で不明や疑問が発生した際は、次回のゼミで提示できるようにすること。

履修上の注意/Notes

- ・ゼミは受講者の主体的参加が重要である。よって、やむを得ない事情による場合以外は遅刻や欠席をしないよう留意すること。15分を超えるような大幅な遅刻や早退は欠席扱いとする。
- ・課題については期限を厳守すること。
- ・グループディスカッション、グループワークなどのコミュニケーションを主にしていくことにする。

情報端末の活用

- ・必要があればこれを自らのプレゼンなどに活用しても構わない。その際、事前に教員に準備のため伝えておくこと。
- ・14回目か15回目に授業アンケートを実施する予定のため、このときはPC、スマートフォン等を持参すること。
- ・必要に応じてレポートを課すこともあるが、その時はmanabaもしくはteamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・期末試験は実施しない。
- ・評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ライティング・ディスカッション」や「ミニツツペーパー」(40%)、②プレゼンテーションの内容(60%)により行う。
- ・ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	新・物理入門
著者名	山本義隆 著
出版社	駿台文庫
出版年	2004
ISBN	9784796116183
教材費	1100

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	電磁気学
著者名	横山順一著
出版社	講談社
出版年	2009
ISBN	978-4061572041
教材費	3080

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1306	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(物理)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	横山 淳				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

物理学ゼミナールIII

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
 - ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
 - ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。
- ディプロマポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本講義の受講メンバーを見ながら、講義内容を柔軟に変更する可能性がある。

第1回：シラバスを用いたガイダンスを行う(大学入門ゼミ・物理学ゼミナールI, II, III共同)。

第2回：高校から大学への「学びの転換」

グローバル化する社会における仕事と人生のキャリアを見据えて、大学で学んでいくための4年間の履修計画についてや、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するかについてディスカッションを行う。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

効果的なディスカッションについてや、効果的なプレゼンテーションについて議論する。

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法

電磁気学の基礎的な法則に関してその理解を深めるための課題を設定し、テキスト等を用いながらディスカッションを行う。その後、教科書を用いて論文・レポートの書き方を学び、自分の考えをまとめていく。また、剽窃等行ってはならない不正行為について学ぶ。

第5回：図書館の活用

課題レポートや卒業研究で必要とされる文献検索の方法について、大学図書館を活用して学ぶ。終了後、第6回以降に行う電磁気学に関するゼミへの趣旨説明を行い、テキスト、参考書の紹介を行う。その後、グループ分け発表の進め方や準備する上での留意点等について議論する。

第6回：静電場とクーロンの法則

静電場とクーロンの法則

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第7回：電位の概念

電位の概念

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第8回：コンデンサー

コンデンサー

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第9回：電流と過渡現象

電流と過渡現象

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第10回：磁場とローレンツ力

磁場とローレンツ力

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第11回：静磁場

静磁場

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第12回：ファラデーの法則

ファラデーの法則

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第13回：誘導起電力と誘導電場

誘導起電力と誘導電場

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第14回：自己誘導起電力

自己誘導起電力

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

第15回：マクスウェルによるまとめと電磁波

マクスウェル方程式

に関する発表をもとに、理解を深めるためのディスカッションを行う。

【授業外学修】

・第1回～第5回：

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

・第6回以降：

受講者全員がテキストを事前に予習し、授業中にディスカッションをする上での必要事項をまとめておくなど準備を行うことが必要である。また、発表者のグループは、効果的なプレゼンができるよう事前にグループで打ち合わせを行うこと。授業後は、ゼミでのディスカッション内容をもとに復習を行い、その時点で不明や疑問が発生した際は、次回のゼミで提示できるようにすること。

履修上の注意/Notes

- ・ゼミは受講者の主体的参加が重要である。よって、やむを得ない事情による場合以外は遅刻や欠席をしないよう留意すること。15分を超えるような大幅な遅刻や早退は欠席扱いとする。
- ・課題については期限を厳守すること。
- ・グループディスカッション、グループワークなどのコミュニケーションを主にしていくことにする。

情報端末の活用

- ・必要があればこれを自らのプレゼンなどに活用しても構わない。その際、事前に教員に準備のため伝えておくこと。
- ・14回目か15回目に授業アンケートを実施する予定のため、このときはPC、スマートフォン等を持参すること。
- ・必要に応じてレポートを課すこともあるが、その時はmanabaもしくはteamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : ゼミで取り上げる電磁気学その他の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・期末試験は実施しない。
- ・評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ライティング・ディスカッション」や「ミニツツペーパー」(40%)、②プレゼンテーションの内容(60%)により行う。
- ・ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	新・物理入門
著者名	山本義隆 著
出版社	駿台文庫
出版年	2004
ISBN	9784796116183
教材費	1100

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	電磁気学
著者名	横山順一著
出版社	講談社
出版年	2009
ISBN	978-4061572041
教材費	3080

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1307	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(化学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	烏養 祐二 (Yuji Torikai)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

化学ゼミナールI

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回(神子島)：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)。大学という学修・生活環境における自由と責任

(ディスカッション) 大学という学修・生活環境における自由と責任議論する。

【授業外学修】大学という学修・生活環境における自由と責任について、自分自身の考えをまとめておくこと。

第2回(鳥養)：高校から大学への「学びの転換」

(ディスカッション) 4年間の履修計画、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか、生活スケジュールの確立について議論する。

【授業外学修】高校と大学での学び方の違い、4年間の学修計画、学外活動参加等に関する自分自身の考えをまとめておくこと。

第3回(高妻)：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

(ディスカッション) 効果的なディスカッションやプレゼンテーションについて議論する。

【授業外学修】効果的なディスカッションやプレゼンテーションを行うために自分自身が気を付けていることをまとめておくこと。

第4回(西川)：「読む」、「書く」に関する技法と作法

(ディスカッション) レポート課題「卒業論文のテーマを考える」が出題されたら、現時点でどのようなテーマが発想されるか、そのときそのような準備が必要かを考えさせる。また、効果的なノートの取り方について議論する。

【授業外学修】自分自身で仮想卒業研究テーマを設定し、どのような準備が必要かをまとめておくこと。

第5回(全教員)：図書館の活用

(フィールドワーク) 図書館において文献調査・検索法を学ぶ。

【授業外学修】授業後、実際に文献調査・検索を体験すること。

第6回（鳥養）：理学部文献資料室の利用法，文献検索法

【授業外学修】授業後，実際に文献調査・検索を体験すること。

第7回（鳥養）：文献検索演習

（PBL）文献検索課題を通じて，正確に検索できる技法を学ぶ。

【授業外学修】授業後，実際に文献調査・検索を体験すること。

第8回（鳥養）：文献検索演習結果発表会

（クリエイティブ・セッション）検索結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

【授業外学修】発表会で指摘された点を踏まえて，さらに優れた資料を作成する。

第9回（鳥養）：化学物質の安全性に関するデータベースの紹介

【授業外学修】授業後，実際に化学物質の安全性に関するデータベースを体験すること。

第10回（鳥養）：化学物質の安全性に関するデータベースの利用演習

（PBL）データベース利用課題を通じて，正確に検索できる技法を学ぶ。

【授業外学修】授業後，実際にデータベース利用を体験すること。

第11回（鳥養）：化学物質の安全性に関するデータベース利用結果発表会

（クリエイティブ・セッション）利用結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

【授業外学修】発表会で指摘された点を踏まえて，さらに優れた資料を作成する。

第12回（鳥養）：化学実験を行うに当たっての諸注意

【授業外学修】配布資料を読み，安全に化学実験を行えるよう理解しておく。

第13回（鳥養）：環境トリチウムを計ってみよう1

（PBL）実験上の諸問題に直面した場合の解決法について学習する。

【授業外学修】実験結果について考察し，レポート作成に役立てる。

第14回（鳥養）：環境トリチウムを計ってみよう2

（PBL）実験上の諸問題に直面した場合の解決法について学習する。

【授業外学修】実験結果について考察し，レポート作成に役立てる。

第15回（鳥養）：実験結果発表会

（クリエイティブ・セッション）実験結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

（授業後レポート）実験結果，考察をレポートにまとめ，提出する。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

授業内でノートPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 化学に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

A : 化学に関する基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

B : 化学に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

C : 化学に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。

D : 化学に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

調査発表およびレポートを課す。また，調査発表における参加の態度も考慮に入れる。その上で，数回の課題レポート(40%)，発表(40%)，積極性(20%)を基に評価する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1308	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(化学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	神子島 博隆				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

化学ゼミナールII

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回(神子島): シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)。大学という学修・生活環境における自由と責任

(ディスカッション) 大学という学修・生活環境における自由と責任議論する。

【授業外学修】 大学という学修・生活環境における自由と責任について、自分自身の考えをまとめておくこと。

第2回(鳥養): 高校から大学への「学びの転換」

(ディスカッション) 4年間の履修計画、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか、生活スケジュールの確立について議論する。

【授業外学修】 高校と大学での学び方の違い、4年間の学修計画、学外活動参加等に関する自分自身の考えをまとめておくこと。

第3回(高妻): 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

(ディスカッション) 効果的なディスカッションやプレゼンテーションについて議論する。

【授業外学修】 効果的なディスカッションやプレゼンテーションを行うために自分自身が気を付けていることをまとめておくこと。

第4回(西川): 「読む」、「書く」に関する技法と作法

(ディスカッション) レポート課題「卒業論文のテーマを考える」が出題されたら、現時点でどのようなテーマが発想されるか、そのときそのような準備が必要かを考えさせる。また、効果的なノートの取り方について議論する。

【授業外学修】 自分自身で仮想卒業研究テーマを設定し、どのような準備が必要かをまとめておくこと。

第5回(全教員): 図書館の活用

(フィールドワーク) 図書館において文献調査・検索法を学ぶ。

【授業外学修】 授業後、実際に文献調査・検索を体験すること。

第6回（神子島）：理学部文献資料室の利用法，文献検索法

【授業外学修】授業後，実際に文献調査・検索を体験すること。

第7回（神子島）：文献検索演習

（PBL）文献検索課題を通じて，正確に検索できる技法を学ぶ。

【授業外学修】授業後，実際に文献調査・検索を体験すること。

第8回（神子島）：文献検索演習結果発表会

（クリエイティブ・セッション）検索結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

【授業外学修】発表会で指摘された点を踏まえて，さらに優れた資料を作成する。

第9回（神子島）：化学物質の安全性に関するデータベースの紹介

【授業外学修】授業後，実際に化学物質の安全性に関するデータベースを体験すること。

第10回（神子島）：化学物質の安全性に関するデータベースの利用演習

（PBL）データベース利用課題を通じて，正確に検索できる技法を学ぶ。

【授業外学修】授業後，実際にデータベース利用を体験すること。

第11回（神子島）：化学物質の安全性に関するデータベース利用結果発表会

（クリエイティブ・セッション）利用結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

【授業外学修】発表会で指摘された点を踏まえて，さらに優れた資料を作成する。

第12回（神子島）：化学実験を行うに当たっての諸注意

【授業外学修】配布資料を読み，安全に化学実験を行えるよう理解しておく。

第13回（神子島）：カフェインの抽出実験

（PBL）実験上の諸問題に直面した場合の解決法について学習する。

【授業外学修】実験結果について考察し，レポート作成に役立てる。

第14回（神子島）：カフェインの精製実験

（PBL）実験上の諸問題に直面した場合の解決法について学習する。

【授業外学修】実験結果について考察し，レポート作成に役立てる。

第15回（神子島）：実験結果発表会

（クリエイティブ・セッション）実験結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

（授業後レポート）実験結果，考察をレポートにまとめ，提出する。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

授業内でノートPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 化学に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

A : 化学に関する基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

B : 化学に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

C : 化学に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。

D : 化学に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

調査発表およびレポートを課す。また，調査発表における参加の態度も考慮に入れる。その上で，数回の課題レポート(40%)，発表(40%)，積極性(20%)を基に評価する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1309	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(化学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	山口 峻英				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

大学入門ゼミ

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活をおくるための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション、化学

到達目標/Learning Objectives

自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。

- ・自らの専門分野(化学)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回(神子島): シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)。大学という学修・生活環境における自由と責任

(ディスカッション) 大学という学修・生活環境における自由と責任議論する。

【授業外学修】 大学という学修・生活環境における自由と責任について、自分自身の考えをまとめておくこと。

第2回(鳥養): 高校から大学への「学びの転換」

(ディスカッション) 4年間の履修計画、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか、生活スケジュールの確立について議論する。

【授業外学修】 高校と大学での学び方の違い、4年間の学修計画、学外活動参加等に関する自分自身の考えをまとめておくこと。

第3回(山口): 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

(ディスカッション) 効果的なディスカッションやプレゼンテーションについて議論する。

【授業外学修】 効果的なディスカッションやプレゼンテーションを行うために自分自身が気を付けていることをまとめておくこと。

第4回(西川): 「読む」、「書く」に関する技法と作法

(ディスカッション) レポート課題「卒業論文のテーマを考える」が出題されたら、現時点でどのようなテーマが発想されるか、そのときそのような準備が必要かを考えさせる。また、効果的なノートの取り方について議論する。

【授業外学修】 自分自身で仮想卒業研究テーマを設定し、どのような準備が必要かをまとめておくこと。

第5回(全教員): 図書館の活用

(フィールドワーク) 図書館において文献調査・検索法を学ぶ。

【授業外学修】 授業後、実際に文献調査・検索を体験すること。

第6回（山口）：理学部文献資料室の利用法，文献検索法

【授業外学修】授業後，実際に文献調査・検索を体験すること。

第7回（山口）：文献検索演習

（PBL）文献検索課題を通じて，正確に検索できる技法を学ぶ。

【授業外学修】授業後，実際に文献調査・検索を体験すること。

第8回（山口）：文献検索演習結果発表会

（クリエイティブ・セッション）検索結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

【授業外学修】発表会で指摘された点を踏まえて，さらに優れた資料を作成する。

第9回（山口）：生体分子に関するデータベース・ツールの紹介

【授業外学修】授業後，実際に生体分子に関するデータベース・ツールを体験すること。

第10回（山口）：生体分子に関するデータベース・ツールの利用演習

（PBL）データベース利用課題を通じて，正確に検索できる技法を学ぶ。

【授業外学修】授業後，実際にデータベース利用を体験すること。

第11回（山口）：生体分子に関するデータベース利用結果発表会

（クリエイティブ・セッション）利用結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

【授業外学修】発表会で指摘された点を踏まえて，さらに優れた資料を作成する。

第12回（山口）：化学実験を行うに当たっての諸注意

【授業外学修】配布資料を読み，安全に化学実験を行えるよう理解しておく。

第13回（山口）：生物化学実験 1

（PBL）実験上の諸問題に直面した場合の解決法について学習する。

【授業外学修】実験結果について考察し，レポート作成に役立てる。

第14回（山口）：生物化学実験 2

（PBL）実験上の諸問題に直面した場合の解決法について学習する。

【授業外学修】実験結果について考察し，レポート作成に役立てる。

第15回（山口）：実験結果発表会

（クリエイティブ・セッション）実験結果をpowerpoint等を使用して，わかりやすく発表する技法を学ぶ。

（授業後レポート）実験結果，考察をレポートにまとめ，提出する。

履修上の注意/Notes

インターネットや電卓を利用できるようにしておくこと。

自主的・積極的な参加が必要である。

調査発表の際には，質問などを積極的にすること。

シラバスの内容の変更もありうるが，その場合はあらかじめ通知する。

情報端末の活用

授業内でノートPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 化学に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

A : 化学に関する基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

B : 化学に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。

C : 化学に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。

D : 化学に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

調査発表およびレポートを課す。また，調査発表における参加の態度も考慮に入れる。その上で，数回の課題レポート(40%)、発表(40%)、積極性(20%)を基に評価する。期末試験は実施しない。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目を、授業内で配布するルーブリック

で評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1310	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(化学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	西川 浩之(Nishikawa Hiroyuki)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

化学ゼミナールⅣ

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション、化学

到達目標/Learning Objectives

自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
 ・自らの専門分野(化学)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
 ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任(折山)
 (ディスカッション)効果的な自己紹介について、ネットやSNSで注意すること、アルバイトを始める際に注意すること、などを議論する。

第2回:高校から大学への「学びの転換」(神子島)
 (ブレインストーミング)4年間の履修計画、学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか、生活スケジュールの確立について議論する。

第3回:「聞く」、「話す」に関する技法と作法(高妻)
 (ディスカッション)効果的なディスカッションやプレゼンテーションについて議論する。

第4回:「読む」、「書く」に関する技法と作法(西川)
 (ディスカッション)レポート課題「卒業論文のテーマを考える」が出題されたら、現時点でどのようなテーマが発想されるか、そのときどのような準備が必要かを考えさせる。また、効果的なノートの取り方について議論する。

第5回:図書館ツアー(西川)
 (フィールドワーク)図書館において文献調査・検索法を学ぶ。

第6回:学外研究機関との教育研究協力 -J-PARCを例として- (高妻)

第7回:J-PARC見学 加速器施設等(高妻)
 (フィールドワーク)J-PARCの加速器施設等を見学し、実際の研究現場を体験・理解する。

第8回:J-PARC見学 物質・生命科学実験施設等(高妻)
 (フィールドワーク)J-PARCの物質・生命科学実験施設等を見学し、実際の研究現場を体験・理解する。

第9回:化学物質の安全性に関するデータベースの紹介 (西川)

第10回:化学物質の安全性に関するデータベースの利用演習 (西川)

第11回:パワーポイントを使用した化学物質の安全性に関するデータベース利用結果発表会 (西川)

(クリエイティブ・セッション) 学習した内容をパワーポイントを利用して発表・質疑応答する。

(授業後レポート) 学習した内容をレポートにまとめ、提出する。

第12回:化学実験を行うに当たっての諸注意 (西川)

第13回:電気分解に関する実験 (西川)

第14回:燃料電池に関する実験 (西川)

第15回:パワーポイントを使用した実験結果発表会 (西川)

(クリエイティブ・セッション) 学修した内容をパワーポイントを利用して発表・質疑応答する。

(授業後レポート) 学習した内容をレポートにまとめ、提出する。

履修上の注意/Notes

インターネットや電卓を利用できるようにしておくこと。

自主的・積極的な参加が必要である。

調査発表の際には、質問などを積極的にすること。

シラバスの内容の変更もありうるが、その場合はあらかじめ通知する。

情報端末の活用

文献調査等でインターネットを利用するため、授業内でPCを使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 化学に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A : 化学に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B : 化学に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C : 化学に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D : 化学に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

調査発表およびレポートを課す。また、調査発表における参加の態度も考慮に入れる。その上で、数回の課題レポート(40%)、発表(40%)、積極性(20%)を基に評価する。期末試験は実施しない。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目を、授業内で配布するルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	ガクモン+発信力+常識力=∞ - 茨城大学での学修の手引き -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
----	---------------------------------

著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1311	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(生物)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	野田 悟子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

生物科学の学び方 I

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回の授業時に、「生物学の学び方」を希望する学生は生物学の学び方I, II, IIIの3クラスに分かれる。その後、3クラスそれぞれの講義室に分かれて授業を受ける。

第1回:

【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

- 1) シラバスを用いたガイダンスと導入
- 2) 自己紹介(大学での目標紹介)
- 3) ネットやSNSのマナー(課題:被害者になる場合、加害者になる場合とはどのような場合があるだろうか)
- 4) レポート等での剽窃・盗用、試験等での不正行為(課題:なぜだめなのか考えよう)
- 5) 学外での行動

【授業外学修】第1回でのディスカッション内容を踏まえて、ネットやSNSにおいて被害者あるいは加害者になる場合、剽窃・盗用・不正行為について自分自身で考え直す。

【アクティブ・ラーニング】ネットやSNSのマナー、およびレポート等での剽窃・盗用、試験等での不正行為に関するディスカッション

第2回:

【授業内容】高校から大学への「学びの転換」

- 1) 茨城大学における教育
- 2) 学修の実質化

3) 大学の学修をどう生かすか（課題：自分の進路のために学修を生かすにはどうしたら良いだろうか）

【授業外学修】第2回でのディスカッション内容を踏まえて、高校までの学習と大学における学修の違いについて考える。

【アクティブ・ラーニング】自分の進路のために大学での学修を生かすにはどのようにすれば良いかに関するディスカッション

第3回：

【授業内容】生物の観察

- 1) 大学構内あるいは周辺などでの生物の観察
- 2) 自分が関心を持った生物について調査
- 3) それぞれが関心を持った生物について意見交換

【授業外学修】自分が関心を持った生物について授業時間中に調べきれなかったことについて、さらに詳しく文献調査を行う。

【アクティブ・ラーニング】各自が関心をもった生物や、他の受講生が興味をもった生物についてディスカッション

第4回：

【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法

- 1) 講義の聞き方
- 2) ディスカッション
- 3) プレゼンテーション（課題：聞く側に立って、効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか考えよう）

【授業外学修】第3回でのディスカッション内容を踏まえて、大学における授業をどのように聞か、また効果的なプレゼンテーションを行うにはどのようにすれば良いかについて考える。

【アクティブ・ラーニング】効果的なプレゼンテーションとはどのようなものであるかに関するディスカッション

第5回：

【授業内容】第1調査テーマ、第2調査テーマについて

- 1) 第1調査テーマ（第8回～第11回）、第2調査テーマ（第12回～第15回）の授業の実施方法の説明。
- 2) 第1調査テーマと第2調査テーマの解説および自然科学・生物科学の特徴について
- 3) グループ分け
- 4) 学生によるグループごとの調査計画作成（役割分担、日程調整、連絡方法、発表練習日程等）についての打ち合わせ

【授業外学修】第1調査テーマおよび第2調査テーマを何にするかを検討するとともに、自然科学や生物科学の特徴について授業内容を踏まえて考える。

【アクティブ・ラーニング】グループごとの調査計画作成に関する打合せとディスカッション

第6回：

【授業内容】図書館の活用

- 1) 図書館ガイダンス
- 2) ガイダンス終了後図書館の利用方法について議論（課題：必要な文献・論文に辿り着くにはどうしたら良いのか）

【授業外学修】出された生物学における現象・事項について解説している文献・論文を探す。

【アクティブ・ラーニング】必要な文献や論文を探す方法に関するディスカッション

第7回：

【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法

- 1) テキストの読み方
- 2) ノートの書き方
- 3) レポートの書き方（課題：レポートは何のために書くのか考えよう）

【授業外学修】第4回でのディスカッション内容を踏まえて、レポートをどのように書くかについて考える。

【アクティブ・ラーニング】レポートは何のために書くのかに関するディスカッション

第8回：

【授業内容】第1調査テーマについて第1グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第1グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第1グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第9回：

【授業内容】第1調査テーマについて第2グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第2グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第2グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第10回：

【授業内容】第1調査テーマについて第3グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第3グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第3グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第11回：

【授業内容】第1調査テーマについて第4グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第4グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第4グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第12回：

【授業内容】第2調査テーマについて第1グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第1グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第1グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第13回：

【授業内容】第2調査テーマについて第2グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第2グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第2グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第14回：

【授業内容】第2調査テーマについて第3グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第3グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第3グループ以外の受講者

はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】 調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第15回：

【授業内容】 第2調査テーマについて第4グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】 第2調査テーマについて、第4グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第4グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】 調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

【授業外学修】

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。また、提示された調査テーマについて綿密に調査し、その結果をわかりやすくまとめてプレゼンテーション資料を作成し、発表の際には十分な準備をすること。発表の際の質疑応答で新たに生じた疑問点や調査が不足していた箇所について再度よく調べた上でレポートを作成する。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】 グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。また、各自のテーマについて調べて、まとめた結果をもとにプレゼンテーション資料を作成して発表する。他の受講者の発表に対しては積極的に質問すること。

履修上の注意/Notes

各自のテーマについて調べてまとめた上で発表に臨むことが必要である。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。30分を超えた遅刻については欠席とし、30分以内の場合は欠席3分の1回とする。オフィス・アワーは授業終了後とする。本科目は就業力育成プログラムのフレッシュマンゼミナール(2単位)に対応します。

情報端末の活用

情報端末を活用する。

第1調査テーマと第2調査テーマに関する口頭発表では、パワーポイントを使ったプレゼンテーションにより行う。また、調査に当たっては、図書館を活用するとともに、インターネットでも必要な情報を検索し活用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：主体的に学修する非常に高い意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を十分に身につけている。

A：主体的に学修する高い意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけている。

B：主体的に学修する意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を概ね身につけている。

C：主体的に学修する最低限の意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を最低限身につけている。

D：主体的に学修する意欲を欠いており、最低限の課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。第1～4回ならびに第6回の各回の討論に参加し、意見を述べてもらう。第8～15回の各回とも他の受講者の発表に対して1回は口頭での質問をしてもらう。また、質問の内容も受けたい形で、最終的に内容をまとめ、レポートを提出してもらう。口頭発表の内容40%、討論への参加の積極性と内容30%、レポート30%で評価する。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1980

参考書4

書名	理科系の作文技術
著者名	木下 是雄 著
出版社	中央公論社
出版年	1981
ISBN	9784121006240
教材費	770

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	○
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1312	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(生物)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	立花 章(Tachibana Akira)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

生物科学の学び方II

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回の授業時に、「生物学の学び方」を希望する学生は生物学の学び方I, II, IIIの3クラスに分かれる。その後、3クラスそれぞれの講義室に分かれて授業を受ける。

第1回:

【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

- 1) シラバスを用いたガイダンスと導入
- 2) 自己紹介(大学での目標紹介)
- 3) ネットやSNSのマナー(課題:被害者になる場合、加害者になる場合とはどのような場合があるだろうか)
- 4) レポート等での剽窃・盗用、試験等での不正行為(課題:なぜだめなのか考えよう)
- 5) 学外での行動

【授業外学修】第1回でのディスカッション内容を踏まえて、ネットやSNSにおいて被害者あるいは加害者になる場合、剽窃・盗用・不正行為について自分自身で考え直す。

【アクティブ・ラーニング】ネットやSNSのマナー、およびレポート等での剽窃・盗用、試験等での不正行為に関するディスカッション

第2回:

【授業内容】高校から大学への「学びの転換」

- 1) 茨城大学における教育
- 2) 学修の実質化

3) 大学の学修をどう生かすか（課題：自分の進路のために学修を生かすにはどうしたら良いだろうか）

【授業外学修】第2回でのディスカッション内容を踏まえて、高校までの学習と大学における学修の違いについて考える。

【アクティブ・ラーニング】自分の進路のために大学での学修を生かすにはどのようにすれば良いかに関するディスカッション

第3回：

【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法

- 1) 講義の聞き方
- 2) ディスカッション
- 3) プレゼンテーション（課題：聞く側に立って、効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか考えよう）

【授業外学修】第3回でのディスカッション内容を踏まえて、大学における授業をどのように聞か、また効果的なプレゼンテーションを行うにはどのようにすれば良いかについて考える。

【アクティブ・ラーニング】効果的なプレゼンテーションとはどのようなものであるかに関するディスカッション

第4回：

【授業内容】生物の観察

- 1) 大学構内あるいは周辺などでの生物の観察
- 2) 自分が関心を持った生物について調査
- 3) それぞれが関心を持った生物について意見交換

【授業外学修】自分が関心を持った生物について授業時間中に調べきれなかったことについて、さらに詳しく文献調査を行う。

【アクティブ・ラーニング】各自が関心をもった生物や、他の受講生が興味をもった生物についてディスカッション

第5回：

【授業内容】第1調査テーマ、第2調査テーマについて

- 1) 第1調査テーマ（第8回～第11回）、第2調査テーマ（第12回～第15回）の授業の実施方法の説明。
- 2) 第1調査テーマと第2調査テーマの解説および自然科学・生物科学の特徴について
- 3) グループ分け
- 4) 学生によるグループごとの調査計画作成（役割分担、日程調整、連絡方法、発表練習日程等）についての打ち合わせ

【授業外学修】第1調査テーマおよび第2調査テーマを何にするかを検討するとともに、自然科学や生物科学の特徴について授業内容を踏まえて考える。

【アクティブ・ラーニング】グループごとの調査計画作成に関する打合せとディスカッション

第6回：

【授業内容】図書館の活用

- 1) 図書館ガイダンス
- 2) ガイダンス終了後図書館の利用方法について議論（課題：必要な文献・論文に辿り着くにはどうしたら良いのか）

【授業外学修】出された生物学における現象・事項について解説している文献・論文を探す。

【アクティブ・ラーニング】必要な文献や論文を探す方法に関するディスカッション

第7回：

【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法

- 1) テキストの読み方
- 2) ノートの書き方
- 3) レポートの書き方（課題：レポートは何のために書くのか考えよう）

【授業外学修】第4回でのディスカッション内容を踏まえて、レポートをどのように書くかについて考える。

【アクティブ・ラーニング】レポートは何のために書くのかに関するディスカッション

第8回：

【授業内容】第1調査テーマについて第1グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第1グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第1グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第9回：

【授業内容】第1調査テーマについて第2グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第2グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第2グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第10回：

【授業内容】第1調査テーマについて第3グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第3グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第3グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第11回：

【授業内容】第1調査テーマについて第4グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第4グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第4グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第12回：

【授業内容】第2調査テーマについて第1グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第1グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第1グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第13回：

【授業内容】第2調査テーマについて第2グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第2グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第2グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第14回：

【授業内容】第2調査テーマについて第3グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第3グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第3グループ以外の受講者

はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】 調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第15回：

【授業内容】 第2調査テーマについて第4グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】 第2調査テーマについて、第4グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第4グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】 調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

【授業外学修】

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。また、提示された調査テーマについて綿密に調査し、その結果をわかりやすくまとめてプレゼンテーション資料を作成し、発表の際には十分な準備をすること。発表の際の質疑応答で新たに生じた疑問点や調査が不足していた箇所について再度よく調べた上でレポートを作成する。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】 グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。また、各自のテーマについて調べて、まとめた結果をもとにプレゼンテーション資料を作成して発表する。他の受講者の発表に対しては積極的に質問すること。

履修上の注意/Notes

各自のテーマについて調べてまとめた上で発表に臨むことが必要である。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。30分を超えた遅刻については欠席とし、30分以内の場合は欠席3分の1回とする。オフィス・アワーは授業終了後とする。本科目は就業力育成プログラムのフレッシュマンゼミナール(2単位)に対応します。

情報端末の活用

情報端末を活用する。

第1調査テーマと第2調査テーマに関する口頭発表では、パワーポイントを使ったプレゼンテーションにより行う。また、調査に当たっては、図書館を活用するとともに、インターネットでも必要な情報を検索し活用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：主体的に学修する非常に高い意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を十分に身につけている。

A：主体的に学修する高い意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけている。

B：主体的に学修する意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を概ね身につけている。

C：主体的に学修する最低限の意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を最低限身につけている。

D：主体的に学修する意欲を欠いており、最低限の課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。第1～4回ならびに第6回の各回の討論に参加し、意見を述べてもらう。第8～15回の各回とも他の受講者の発表に対して1回は口頭での質問をしてもらう。また、質問の内容も受けたい形で、最終的に内容をまとめ、レポートを提出してもらう。口頭発表の内容40%、討論への参加の積極性と内容30%、レポート30%で評価する。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか]著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1980

参考書4

書名	理科系の作文技術
著者名	木下是雄 著
出版社	中央公論社
出版年	1981
ISBN	9784121006240

教材費	770
-----	-----

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1313	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(生物)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	中村 麻子 (Asako Nakamura)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

生物科学の学び方III

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回の授業時に、「生物学の学び方」を希望する学生は生物学の学び方I, II, IIIの3クラスに分かれる。その後、3クラスそれぞれの講義室に分かれて授業を受ける。

第1回:

【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

- 1) シラバスを用いたガイダンスと導入
- 2) 自己紹介(大学での目標紹介)
- 3) ネットやSNSのマナー(課題:被害者になる場合、加害者になる場合とはどのような場合があるだろうか)
- 4) レポート等での剽窃・盗用、試験等での不正行為(課題:なぜだめなのか考えよう)
- 5) 学外での行動

【授業外学修】第1回でのディスカッション内容を踏まえて、ネットやSNSにおいて被害者あるいは加害者になる場合、剽窃・盗用・不正行為について自分自身で考え直す。

【アクティブ・ラーニング】ネットやSNSのマナー、およびレポート等での剽窃・盗用、試験等での不正行為に関するディスカッション

第2回:

【授業内容】高校から大学への「学びの転換」

- 1) 茨城大学における教育
- 2) 学修の実質化

3) 大学の学修をどう生かすか（課題：自分の進路のために学修を生かすにはどうしたら良いだろうか）

【授業外学修】第2回でのディスカッション内容を踏まえて、高校までの学習と大学における学修の違いについて考える。

【アクティブ・ラーニング】自分の進路のために大学での学修を生かすにはどのようにすれば良いかに関するディスカッション

第3回：

【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法

- 1) 講義の聞き方
- 2) ディスカッション
- 3) プレゼンテーション（課題：聞く側に立って、効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか考えよう）

【授業外学修】第3回でのディスカッション内容を踏まえて、大学における授業をどのように聞か、また効果的なプレゼンテーションを行うにはどのようにすれば良いかについて考える。

【アクティブ・ラーニング】効果的なプレゼンテーションとはどのようなものであるかに関するディスカッション

第4回：

【授業内容】調査テーマについて

- 1) 第1調査テーマ（第8回～第11回）、第2調査テーマ（第12回～第15回）の授業の実施方法の説明。
- 2) 第1調査テーマと第2調査テーマの解説および自然科学・生物科学の特徴について
- 3) グループ分け
- 4) 学生によるグループごとの調査計画作成（役割分担、日程調整、連絡方法、発表練習日程等）についての打ち合わせ

【授業外学修】第1調査テーマおよび第2調査テーマを何にするかを検討するとともに、自然科学や生物科学の特徴について授業内容を踏まえて考える。

【アクティブ・ラーニング】グループごとの調査計画作成に関する打合せとディスカッション

第5回：

【授業内容】生物の観察

- 1) 大学構内あるいは周辺などでの生物の観察
- 2) 自分が関心を持った生物について調査
- 3) それぞれが関心を持った生物について意見交換

【授業外学修】自分が関心を持った生物について授業時間中に調べきれなかったことについて、さらに詳しく文献調査を行う。

【アクティブ・ラーニング】各自が関心をもった生物や、他の受講生が興味をもった生物についてディスカッション

第6回：

【授業内容】図書館の活用

- 1) 図書館ガイダンス
- 2) ガイダンス終了後図書館の利用方法について議論（課題：必要な文献・論文に辿り着くにはどうしたら良いのか）

【授業外学修】出された生物学における現象・事項について解説している文献・論文を探す。

【アクティブ・ラーニング】必要な文献や論文を探す方法に関するディスカッション

第7回：

【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法

- 1) テキストの読み方
- 2) ノートの書き方
- 3) レポートの書き方（課題：レポートは何のために書くのか考えよう）

【授業外学修】第4回でのディスカッション内容を踏まえて、レポートをどのように書くかについて考える。

【アクティブ・ラーニング】レポートは何のために書くのかに関するディスカッション

第8回：

【授業内容】第1調査テーマについて第1グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第1グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第1グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第9回：

【授業内容】第1調査テーマについて第2グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第2グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第2グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第10回：

【授業内容】第1調査テーマについて第3グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第3グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第3グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第11回：

【授業内容】第1調査テーマについて第4グループの口頭発表、討論

- 1) 第5回の担当教員が提示した第1調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第1調査テーマについて、第4グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第4グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第12回：

【授業内容】第2調査テーマについて第1グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第1グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第1グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第13回：

【授業内容】第2調査テーマについて第2グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第2グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第2グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第14回：

【授業内容】第2調査テーマについて第3グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】第2調査テーマについて、第3グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第3グループ以外の受講者

はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】 調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

第15回：

【授業内容】 第2調査テーマについて第4グループの口頭発表、討論

- 1) 第7回の担当教員が提示した第2調査テーマについて、調査した結果の口頭発表
- 2) 発表内容に基づく討論

【授業外学修】 第2調査テーマについて、第4グループが調査を行い、結果をまとめて、プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表の練習を行う。発表後には、発表と討論の結果を踏まえて、必要であればさらに追加の調査を行って、レポートを作成する。第4グループ以外の受講者はその日の発表内容について自分で復習を行い理解が不十分であった箇所や疑問に思った箇所について研究する。

【アクティブ・ラーニング】 調査結果の発表とディスカッション、レポート作成

【授業外学修】

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。また、提示された調査テーマについて綿密に調査し、その結果をわかりやすくまとめてプレゼンテーション資料を作成し、発表の際には十分な準備をすること。発表の際の質疑応答で新たに生じた疑問点や調査が不足していた箇所について再度よく調べた上でレポートを作成する。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】 グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。また、各自のテーマについて調べて、まとめた結果をもとにプレゼンテーション資料を作成して発表する。他の受講者の発表に対しては積極的に質問すること。

履修上の注意/Notes

各自のテーマについて調べてまとめた上で発表に臨むことが必要である。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。30分を超えた遅刻については欠席とし、30分以内の場合は欠席3分の1回とする。オフィス・アワーは授業終了後とする。本科目は就業力育成プログラムのフレッシュマンゼミナール(2単位)に対応します。

情報端末の活用

情報端末を活用する。

第1調査テーマと第2調査テーマに関する口頭発表では、パワーポイントを使ったプレゼンテーションにより行う。また、調査に当たっては、図書館を活用するとともに、インターネットでも必要な情報を検索し活用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：主体的に学修する非常に高い意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を十分に身につけている。

A：主体的に学修する高い意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけている。

B：主体的に学修する意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を概ね身につけている。

C：主体的に学修する最低限の意欲を持っており、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を最低限身につけている。

D：主体的に学修する意欲を欠いており、最低限の課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。第1～7回の各回の討論に参加し（図書館の利用の回を除く）、意見を述べてもらう。第8～15回の各回とも他の受講者の発表に対して1回は口頭での質問をしてもらう。また、質問の内容も受けた形で、最終的に内容をまとめ、レポートを提出してもらう。口頭発表の内容40%、討論への参加の積極性と内容30%、レポート30%で評価する。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか]著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1980

参考書4

書名	理科系の作文技術
著者名	木下是雄 著
出版社	中央公論社
出版年	1981
ISBN	9784121006240

教材費	770
-----	-----

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1314	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(地球)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	若月 泰孝 (Yasutaka Wakazuki)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

地球環境科学の学び方 I

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、地球環境科学分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動や学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、グループディスカッション、地球環境科学、野外調査

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・地球環境科学に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任 [オンライン授業 (Teams)]

第2回：高校から大学への「学びの転換」
グローバル化する社会：仕事と人生のキャリアを見据えた学修、留学やインターンシップなど学外での学修 (ディスカッション)

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
プレゼンテーションの方法：効果的なプレゼンテーションについて(ディスカッション)

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
レポートの書き方(第14回)に関する下準備 (ディスカッション)

第5回：図書館の活用
剽窃・盗用の問題について (ディスカッション)

第6回：フィールドジオロジー入門ガイダンス
野外調査における安全対策と注意点(フィールドワーク) (ディスカッション)

第7～9回：フィールドジオロジー入門1
北茨城地域における地層の観察(予定) (フィールドワーク)

第10～12回：フィールドジオロジー入門2
筑波山における岩石の観察(予定) (フィールドワーク)

第13回：理学部生のための作文技術(1)

わかりやすい文章とは(ディスカッション) (双方向型執筆演習)

第14回：理学部生のための作文技術 (2)

レポートの書き方(ディスカッション) (双方向型執筆演習)

第15回：フィールドジオロジーのまとめ

野外調査の結果と議論(ディスカッション) (プレゼンテーション)

※第5回の授業は図書館ガイダンスを含む。実際の日程はクラスごとに異なるので、第1回の授業で指示する。

※第7～9回、第10～12回はそれぞれ休日を利用して、集中形式で野外観察を行う。具体的な日程は第1回の授業で指示する。

【授業外学修】

第1～5回(全学共通部分)：教科書・参考書を読み、大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

第6回：予習として、教科書「フィールドジオロジー入門」をよく読んでおくこと。復習を兼ねた課題も出す。

第7～9、10～12回：予習として事前に配布予定の見学案内書をよく読んでおくこと。復習を兼ねた課題も出す。

第13回：予習のためのレポートを事前に課すとともに、復習を兼ねたレポートを課す。また教科書「理科系の作文技術」をよく読んでおくこと。

第14回：予習として、前回と第4回の内容を復習しておくこと。

第15回：予習として、フィールドジオロジーの各回および第3回の内容を復習しておくこと。復習を兼ねた課題も出す。

履修上の注意/Notes

毎回の出席と課題の提出を重視する。アクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。オフィスアワーは授業終了後、あるいは相談に応じて適時設定する。高校で地学を履修していることは前提としない。野外調査に関しては事前ガイダンスで安全対策や注意点をよく理解すること。徒歩での移動や軽い山歩きを伴うので、体力的に問題のある者は事前に教員に相談すること。野外調査に係わる経費(およそ6千円)は自己負担とする。

本授業は地球科学技術者養成プログラムの学習・教育目標(F)に対応する科目群の一つである。

情報端末の活用

- ・情報端末を用いた課題を課すことがある。授業への情報端末の持ち込みは必須としない。詳細については、授業内で指示する。
- ・課題レポートの提出は教務ポータルシステムを利用予定である。詳細は、授業内で指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を十分に理解し、その実践が十分できている。
- A：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を理解し、その実践ができている。
- B：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点をおおむね理解し、その実践がある程度できている。
- C：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を最低限理解し、その実践のための努力ができている。
- D：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点の理解が不十分であり、その実践ができている。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

第1～5回(全学共通部分)および第13,14回(理学部生のための作文技術)：①授業時のディスカッションへの取り組み状況(30%)、②数回の課題レポート(20%)により評価する。第6～12回および第15回(フィールドジオロジー入門)：①野外観察への取り組み状況と課題提出(40%)、②プレゼンテーション(10%)により評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	理科系の作文技術
著者名	木下 是雄
出版社	中央公論社
出版年	1996
ISBN	9784121006240
教材費	770

教科書3

書名	フィールドジオロジー入門
著者名	天野一男, 秋山雅彦著 ; 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編
出版社	共立出版
出版年	2004
ISBN	9784320046818.0
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1315	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(地球)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	山田 卓司(YAMADA Takuji)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

地球環境科学の学び方 I

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、地球環境科学分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動や学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、グループディスカッション、地球環境科学、野外調査

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・地球環境科学に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
効果的な自己紹介について(ディスカッション)
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」
グローバル化する社会：仕事と人生のキャリアを見据えた学修、留学やインターンシップなど学外での学修(ディスカッション)
- 第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
プレゼンテーションの方法：効果的なプレゼンテーションについて(ディスカッション)
- 第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
レポートの書き方(第14回)に関する下準備(ディスカッション)
- 第5回：図書館の活用
剽窃・盗用の問題について(ディスカッション)
- 第6回：フィールドジオロジー入門ガイダンス
野外調査における安全対策と注意点(フィールドワーク)(ディスカッション)
- 第7～9回：フィールドジオロジー入門1
北茨城地域における地層の観察(予定)(フィールドワーク)
- 第10～12回：フィールドジオロジー入門2
筑波山における岩石の観察(予定)(フィールドワーク)
- 第13回：理学部生のための作文技術(1)

わかりやすい文章とは(ディスカッション) (双方向型執筆演習)

第14回：理学部生のための作文技術(2)

レポートの書き方(ディスカッション) (双方向型執筆演習)

第15回：フィールドジオロジーのまとめ

野外調査の結果と議論(ディスカッション) (プレゼンテーション)

※第5回の授業は図書館ガイダンスを含む。実際の日程はクラスごとに異なるので、第1回の授業で指示する。

※第7～9回、第10～12回はそれぞれ休日を利用して、集中形式で野外観察を行う。具体的な日程は第1回の授業で指示する。

【授業外学修】

第1～5回(全学共通部分)：教科書・参考書を読み、大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

第6回：予習として、教科書「フィールドジオロジー入門」をよく読んでおくこと。復習を兼ねた課題も出す。

第7～9、10～12回：予習として事前に配布予定の見学案内書をよく読んでおくこと。復習を兼ねた課題も出す。

第13回：予習のためのレポートを事前に課すとともに、復習を兼ねたレポートを課す。また教科書「理科系の作文技術」をよく読んでおくこと。

第14回：予習として、前回と第4回の内容を復習しておくこと。

第15回：予習として、フィールドジオロジーの各回および第3回の内容を復習しておくこと。復習を兼ねた課題も出す。

履修上の注意/Notes

毎回の出席と課題の提出を重視する。アクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。オフィスアワーは授業終了後、あるいは相談に応じて適時設定する。高校で地学を履修していることは前提としない。野外調査に関しては事前ガイダンスで安全対策や注意点をよく理解すること。徒歩での移動や軽い山歩きを伴うので、体力的に問題のある者は事前に教員に相談すること。野外調査に係わる経費(およそ4-5千円)は自己負担とする。

本授業は地球科学技術者養成プログラムの学習・教育目標(F)に対応する科目群の一つである。

情報端末の活用

- ・情報端末を用いた課題を課すことがある。授業への情報端末の持ち込みは必須としない。詳細については、授業内で指示する。
- ・課題レポートの提出は教務ポータルシステムを利用予定である。詳細は、授業内で指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+： 茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を十分に理解し、その実践が十分できている。
- A： 茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を理解し、その実践ができている。
- B： 茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点をおおむね理解し、その実践がある程度できている。
- C： 茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を最低限理解し、その実践のための努力ができている。
- D： 茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点の理解が不十分であり、その実践ができしていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

第1～5回(全学共通部分)および第13,14回(理学部生のための作文技術)：①授業時のディスカッションへの取り組み状況(30%)、②数回の課題レポート(20%)により評価する。第6～12回および第15回(フィールドジオロジー入門)：①野外観察への取り組み状況と課題提出(40%)、②プレゼンテーション(10%)により評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	理科系の作文技術
著者名	木下 是雄 著
出版社	中央公論社
出版年	1981
ISBN	9784121006240
教材費	700

教科書3

書名	フィールドジオロジー入門
著者名	天野一男, 秋山雅彦著 ; 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編
出版社	共立出版
出版年	2004
ISBN	9784320046818.0
教材費	2000

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1316	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	S(地球)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	野澤 恵 (Satoshi Nozawa)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

地球環境科学の学び方III

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、地球環境科学分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動や学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、グループディスカッション、地球環境科学、野外調査

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・地球環境科学に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任〔オンライン授業(Teams)〕

第2回：高校から大学への「学びの転換」
グローバル化する社会：仕事と人生のキャリアを見据えた学修、留学やインターンシップなど学外での学修(ディスカッション)

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
プレゼンテーションの方法：効果的なプレゼンテーションについて(ディスカッション)

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
レポートの書き方(第14回)に関する下準備(ディスカッション)

第5回：図書館の活用
剽窃・盗用の問題について(ディスカッション)

第6回：フィールドジオロジー入門ガイダンス
野外調査における安全対策と注意点(フィールドワーク)(ディスカッション)

第7～9回：フィールドジオロジー入門1
北茨城地域における地層の観察(予定)(フィールドワーク)

第10～12回：フィールドジオロジー入門2
筑波山における岩石の観察(予定)(フィールドワーク)

第13回：理学部生のための作文技術(1)

わかりやすい文章とは(ディスカッション) (双方向型執筆演習)

第14回：理学部生のための作文技術 (2)

レポートの書き方(ディスカッション) (双方向型執筆演習)

第15回：フィールドジオロジーのまとめ

野外調査の結果と議論(ディスカッション) (プレゼンテーション)

※第5回の授業は図書館ガイダンスを含む。実際の日程はクラスごとに異なるので、第1回の授業で指示する。

※第7～9回、第10～12回はそれぞれ休日を利用して、集中形式で野外観察を行う。具体的な日程は第1回の授業で指示する。

【授業外学修】

第1～5回(全学共通部分)：教科書・参考書を読み、大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

第6回：予習として、教科書「フィールドジオロジー入門」をよく読んでおくこと。復習を兼ねた課題も出す。

第7～9、10～12回：予習として事前に配布予定の見学案内書をよく読んでおくこと。復習を兼ねた課題も出す。

第13回：予習のためのレポートを事前に課すとともに、復習を兼ねたレポートを課す。また教科書「理科系の作文技術」をよく読んでおくこと。

第14回：予習として、前回と第4回の内容を復習しておくこと。

第15回：予習として、フィールドジオロジーの各回および第3回の内容を復習しておくこと。復習を兼ねた課題も出す。

履修上の注意/Notes

毎回の出席と課題の提出を重視する。アクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。オフィスアワーは授業終了後、あるいは相談に応じて適時設定する。高校で地学を履修していることは前提としない。野外調査に関しては事前ガイダンスで安全対策や注意点をよく理解すること。徒歩での移動や軽い山歩きを伴うので、体力的に問題のある者は事前に教員に相談すること。野外調査に係わる経費(およそ6千円)は自己負担とする。

本授業は地球科学技術者養成プログラムの学習・教育目標(F)に対応する科目群の一つである。

情報端末の活用

- ・情報端末を用いた課題を課すことがある。授業への情報端末の持ち込みは必須としない。詳細については、授業内で指示する。
- ・課題レポートの提出は教務ポータルシステムを利用予定である。詳細は、授業内で指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を十分に理解し、その実践が十分できている。
- A：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を理解し、その実践ができている。
- B：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点をおおむね理解し、その実践がある程度できている。
- C：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点を最低限理解し、その実践のための努力ができている。
- D：茨城大学における今後の自律的生活および地球環境科学の学修において、重要な点の理解が不十分であり、その実践ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

第1～5回(全学共通部分)および第13,14回(理学部生のための作文技術)：①授業時のディスカッションへの取り組み状況(30%)、②数回の課題レポート(20%)により評価する。第6～12回および第15回(フィールドジオロジー入門)：①野外観察への取り組み状況と課題提出(40%)、②プレゼンテーション(10%)により評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	理科系の作文技術
著者名	木下 是雄
出版社	中央公論社
出版年	1996
ISBN	9784121006240
教材費	770

教科書3

書名	フィールドジオロジー入門
著者名	天野一男, 秋山雅彦著 ; 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編
出版社	共立出版
出版年	2004
ISBN	9784320046818.0
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1401	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T (機械システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	清水 年美, 小林 純也				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

機械システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ①自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ②自らの専門分野 (学部・学科等) に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ③協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入 (自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任 (清水, 小林)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」 (清水, 小林)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法 (清水, 小林)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法 (清水, 小林)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第5回：図書館の活用 (注※) (清水, 小林)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第6回：エネルギー機械技術 (1、講義、課題提示) (清水, 小林, 外部講師)
- 第7回：エネルギー機械技術 (2、講義に関するグループ討議) (清水, 小林)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。
- 第8回：エネルギー機械技術 (3、討議結果の発表と質疑応答) (清水, 小林)
(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。
- 第9回：設計製造技術 (1、講義、課題提示) (清水, 小林, 外部講師)
- 第10回：設計製造技術 (2、講義に関するグループ討議) (清水, 小林)

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第11回：設計製造技術（3、討議結果の発表と質疑応答）（清水，小林）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第12回：情報機械技術（1、講義、課題提示）（清水，小林，外部講師）

第13回：情報機械技術（2、講義に関するグループ討議）（清水，小林）

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第14回：情報機械技術（3、討議結果の発表と質疑応答）（清水，小林）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第15回：なるほど技術者講演会（企業講師による講義、業務・研究開発内容等の紹介）（清水，小林，外部講師）

【授業外学修】

(全学共通部分について)教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

後半部分の講義では、事前に関連キーワードを調査しておくことと理解しやすい。講義に関するグループ討議については、課題内容を理解して十分な調査を行い、自らの考えをまとめてから臨むこと。討議結果の発表と質疑応答のプレゼンテーションでは、前週の討議の結果をまとめてから資料を作成し、発表練習を行って時間内での分かりやすい発表を心がける。また提出課題やレポートには真剣に取り組むこと。

予習・復習の目安となる学修時間は各週4時間程度である。

複数教員(清水・小林)がすべての回を担当する。

※15回の講義のどこかで図書館ガイダンスを実施します。日程はクラスごとに異なるので、授業中の指示に従ってください。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

また、後半部分の同じテーマの講義、グループ討議、発表および質疑応答は、一連の流れで進行するため、欠席するとその前後の授業内容を理解できない。またグループ討議、発表資料作成などには積極的に参加すること。30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。なお、参考書購入以外の経費は特に必要ない。

オフィス・アワー：火曜日5講時終了後（それ以外の日時では、教員は日立キャンパスにいるのでメール等で対応する）。

情報端末の活用

- ・講義資料はmanabaで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・課題レポートについても、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：思考力・判断力・表現力の重要性を十分に理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

A：思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

B：思考力・判断力・表現力の重要性を概ね理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

C：思考力・判断力・表現力の重要性について最低限の理解をしており、主体的な学修の習慣を身につけている。

D：思考力・判断力・表現力の重要性が理解できておらず、主体的な学修の習慣を身につけていない。

成績の評価方法/Grading

(全学共通部分について) 期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した議事録などの資料(8回程度)(50%)、②課題レポート(1回)(20%)、③プレゼンテーション(1回)(30%)により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	茨城大学全学教育機構
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子, ほか著。
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	
教材費	1296

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ—初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明、ほか著。
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	
教材費	2052

参考書3

書名	知へのステップ 第4版 - 大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	上村和美、ほか著。
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○

地域活性化志向	<input type="radio"/>
---------	-----------------------

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

<input type="radio"/>

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

第6回、第9回、第12回ならび第15回の講義では、機械システム工学科のエネルギー機械プログラム、設計製造プログラム、ならび情報機械プログラムに関連する現役の技術者や研究者が、社会的問題とそれを解決するための各企業における技術的な取り組み、また、技術者を目指す学生のために要求される資質などを講義する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1402	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T (電気電子システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	島影 尚, 山田 光宏, 青野 友祐, 鶴殿 治彦, 辻 龍介 (Tsuji Ryusuke)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

電気電子システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野 (学部・学科等) に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回から第5回は、オンラインによる一クラス講義とする。第6回以降は、5班に分かれて、対面で講義を行う。

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入 (自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任(担当：島影)

【アクティブ・ラーニング】自己紹介を通じて、個々人それぞれの様々な考え方を知り、議論を行う。

【授業外学修】テキストの第1回部分を予習しておくこと。(予習：30分)

第2回：高校から大学への「学びの転換」(担当：辻)

【アクティブ・ラーニング】「4年間の履修計画」、「グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据えて学ぶ」、「学外での学修 (留学、インターンシップ、ボランティア等) をどう活用するか」などのテーマでディスカッションを行う。

【授業外学修】テキストの第2回部分を予習しておくこと。(予習：30分)

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法(担当：鶴殿)

【アクティブ・ラーニング】「効果的なディスカッションについて」、「効果的なプレゼンテーションについて」などのテーマでディスカッションを行う。

【授業外学修】テキストの第3回部分を予習しておくこと。(予習：30分)

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法(担当：青野)

【アクティブ・ラーニング】「効果的な、論文の読み方」、「効果的なノートの取り方」などのテーマでディスカッションを行う。

【授業外学修】テキストの第4回部分を予習しておくこと。(予習：30分)

第5回：図書館の活用(担当：山田)

全学教育機構により、図書館において、図書館ガイダンスを行う。その後、研究活用に関わる論文検索などについて講義を行う。

【授業外学修】テキストの第5回部分を予習しておくこと。（予習：30分）

第6回以降で、各班に分かれて、決められたトピックスについて、調査、理解、口頭発表と質疑応答を行い、技術者としての能力を養う。5つのテーマについて調査し発表を行う。発表内容について主体的に自分で理解することが必要となる。発表内容に関連した詳細についても質疑応答できるようにすること。学生同士が発表者に質疑を行い、理解度を確認する。また調査内容はレポートとして提出することを課する。

第6回：各班において、班分け後のガイダンス

【授業外学修】レポートの作成を行う。（復習：1時間）

第7回：「茨城ではじめる学生生活」のレポート提出

アクティブ・ラーニング：レポートについて発表と、質疑応答を行う。

【授業外学修】レポートの作成を行う。（予習：1時間）

第8回：「テーマ1」に関する調査

【授業外学修】レポートの作成を行う。（復習：1時間）

第9回：「テーマ1」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

【授業外学修】レポートの作成を行う。（予習：1時間）

第10回：「テーマ2」に関する調査

【授業外学修】レポートの作成を行う。（復習：1時間）

第11回：「テーマ2」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

【授業外学修】レポートの作成を行う。（予習：1時間）

第12回：「テーマ3」に関する調査

【授業外学修】レポートの作成を行う。（復習：1時間）

第13回：「テーマ3」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

【授業外学修】レポートの作成を行う。（予習：1時間）

第14回：「テーマ4」に関する調査

【授業外学修】レポートの作成を行う。（復習：1時間）

第15回：「テーマ4」に関する発表、レポート提出

【授業外学修】レポートの作成を行う。（予習：1時間）

【授業外学修について】

・第1回から第5回は、「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」を用いるので、必ず授業前に一度読んでおくこと。

・第6回以降は、各班での講義となり、プレゼンテーション及びレポートが必須となるので、それぞれの課題のレポートに取り組むこと。

【アクティブ・ラーニング】

・第1回から第4回では、教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・commonsなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。

・第6回以降は各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

自己のパソコンおよびプレゼンテーションソフトを使用できる能力が必要となる。図書館、インターネット等を用いて、資料の収集を行なう事。使用する資料には出典を明記する事。ディスカッションが重要な科目であるので、遅刻は減点対象となることがあるので注意すること。

質問は授業時間後に対応する。

資料などは講義で配布されるので、特に経費は必要ない。

情報端末の活用

第6回以降は各テーマに対する発表と質疑応答となるため、発表者はPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：与えられた課題に対する優れたレポートが作成でき、わかりやすいプレゼンテーション能力が身についている。
- A：与えられた課題に対するレポートが作成でき、わかりやすいプレゼンテーション能力が身についている。
- B：与えられた課題に対するレポートが作成でき、プレゼンテーション能力が身についている。
- C：与えられた課題に対するレポートが概ね作成でき、プレゼンテーション能力が身についている。
- D：与えられた課題に対するレポートが作成できず、プレゼンテーション能力が身についていない。

成績の評価方法/Grading

第1回から第5回では、授業への取り組み状況（初回に提示する）で評価する。（20%）
第6回以降では、5テーマにわたり担当教員が総合的に採点するが、発表内容と質問に対する応答や質問内容やレポートで判断する。（80%）
期末テストは行わない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	茨城大学 全学教育機構
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子、他著
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -
著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
著者名	上村和美、他著

出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1403	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T (物質科学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	山内 智, 永野 隆敏				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

物質科学工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身に付ける。
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身に付ける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入 (自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任 (プレゼンテーション) 「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」
「4年間の履修計画：卒業後の目標を見据えた履修計画」について説明する。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(ライティング) 「話す側、聞く側双方からみた効果的なプレゼンテーション」について、講義中に課されるテーマに対するプレゼン資料を作成する。

第4回：図書館の活用および第3回講義のプレゼン資料を用いたディスカッション
・図書館ガイダンスの説明
・図書館を利用した学習とラーニング・コモンズ
(ディスカッション) 第3回講義のプレゼン資料を用いてグループ毎にディスカッションを行う。

第5回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
「学修の手引き」を使用して、レポートの書き方の基礎を解説する。また、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について説明する。

(ディスカッション) メールの書き方を例題として各自メールを作成し、グループ毎にディスカッションを行う。

第6回：学科紹介その1「材料工学プログラム」の紹介とグループ毎にレポート作成

(ディスカッション) 材料工学の社会における役割についてグループ毎にテーマを設定し、ディスカッションを行う。それをもとにレポートを作成する。

第7回：学科紹介その2「応用化学プログラム」の紹介とグループ毎にレポート作成

(ディスカッション) 応用化学の社会における役割についてグループ毎にテーマを設定し、ディスカッションを行う。それをもとにレポートを作成する。

第8回：学科紹介その3「生命工学プログラム」の紹介とグループ毎にレポート作成

(ディスカッション) 生命工学の社会における役割についてグループ毎にテーマを設定し、ディスカッションを行う。それをもとにレポートを作成する。

第9回：卒業後の自身を見据えた自己分析

(アンケート形式授業、ディスカッション) 自身の特徴の解析から強み、弱みを理解し、レジリエンスを伸ばすポイントを発見する。自己分析の意義についてディスカッションを行う。

第10回：大学院進学ガイダンスと次週以降の発表資料の模範プレゼンの紹介

「模範プレゼン」学科教員2名による模範的なプレゼンテーションを聴講、それらに対する質疑応答

(ディスカッション) グループに分かれてブレインストーミングで発表資料のテーマ候補を複数挙げる。

第11回：「パワーポイントによる発表準備1」

(ディスカッション) グループに分かれてテーマを決定し、役割分担、活動計画を立てる。何故そのテーマを選んだかグループ内でまとめ、全体に対しグループ代表が発表する。

第12回：「パワーポイントによる発表準備2」

(ディスカッション) 選択したテーマについて調べる。またグループ内で話し合い、パワーポイント発表資料の作成を進める。各グループでチェックおよび改善を行う。

第13回：「パワーポイントによる発表準備3」

(ディスカッション) リハーサルを各グループで行う。各グループで改善点を話し合い、最終資料を完成させる。

第14回：「パワーポイントを使って、各課題に対する調査結果や考察の発表（前半のグループ）」

(プレゼンテーション、ディスカッション) グループごと、各テーマについて発表を行う。各グループ5分程度を想定する。

第15回：「パワーポイントを使って、各課題に対する調査結果や考察の発表（後半のグループ）」

(プレゼンテーション、ディスカッション) グループごと、各テーマについて発表を行う。各グループ5分程度を想定する。

* 毎回の授業は2名の1学年担任が担当します。

【授業外学修】

・ 授業の性質上、授業時間外の主体的な学習（調査、プレゼン資料作成、レポート執筆など）が必要となるので積極的に予習・復習に取り組むこと。予習復習に要する時間は1回の講義あたり90分程度を目安とする。

・ 『茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう - 』に目を通して授業を受けるとよい。各回の学習内容は必ず復習し、理解を深めておくこと。

・ 授業中に行ったディスカッションの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深めるとよい。

・ 学生同士で情報を共有しながらディカッションすることで効果的な復習となる。復習内容は文書としてまとめるように努めること。

【アクティブ・ラーニング】

・ 各回、ディスカッション、プレゼンテーション等の学修内容を踏まえた課題の一環として行う。

履修上の注意/Notes

- ・プレゼンテーション用資料、レポートおよび発表要旨の提出は必須である。
- ・遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。なお、正当な理由のない遅刻は欠席扱いとする場合があるので注意すること。
- ・担当者が通常は日立キャンパスにいるため本授業でのオフィス・アワーは授業終了後とする。
- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
- ・主にTeamsを用いたオンライン授業だが、manabaやドリームキャンパスを用いても、連絡や資料配布、グループワークやレポート提出等を指示する。

情報端末の活用

- ・授業内で資料作成、発表を行う際PCを使用する。このため授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベルで達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載したレポート(50%)、②プレゼンテーション(50%)により行う。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引きー「大学入門ゼミ」から始めようー」
著者名	茨城大学全学教育機構
出版社	
出版年	2018
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	アカデミック・スキルズ(第3版)——大学生のための知的技法入門
著者名	佐藤望編著；湯川武, 横山千晶, 近藤明彦著
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	2020
ISBN	978-4766426564
教材費	1100

参考書2

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	978-4407340617
教材費	1320

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	X	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB1404	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(情報)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	米山 一樹, 原口 春海, 小澤 佑介, 高橋 竜一, 柴田 傑 (Kozawa Yusuke, Takeshi Shibata)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

情報工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性が身に付いている。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤が身に付いている。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤が身に付いている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回から第5回は全学共通部分であり、全員を集めた講義形式で行う。
第6回から第14回は全体を5つの班に分け、班ごとにテーマ発表を行う。
第15回は全員を集めた講義形式で外部講師によるIT業界キャリアセミナーを行う。
なお、テーマ発表では人によって発表を行う回が異なることがある。

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
(ラウンドロビン) グループに分かれて口頭による自己紹介
(米山)

第2回：高校から大学への「学びの転換」
(ディスカッション) 学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか
(原口)

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(ディスカッション、映像活用学習) 効果的なプレゼンテーションについて
(小澤)

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
(ディスカッション、ピアエディティング) 卒業論文のテーマを考える
(高橋)

第5回：図書館の活用

(ディスカッション) 第3回、第4回の振り返り

(柴田)

第6回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第7回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第8回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第9回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第10回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第11回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第12回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第13回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第14回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

(全教員)

第15回：外部講師によるIT業界キャリアセミナー

(米山)

【授業外学修】

(1) テーマの発表においては、スムーズかつ指定された時間内で行うための十分な発表練習を行っておくこと。

(2) 各自、計画的な情報収集・調査を心がけ、発表する内容を吟味し、プレゼンテーションのリハーサルを十分に行ったうえで授業にのぞむこと。

(3) 情報収集・調査に際しては、図書館やインターネットの信頼性のあるサイトなどを活用すること。

(4) 概ね毎回平均3時間程度の授業外学修を目安とする。

履修上の注意/Notes

・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニング(AL)に積極的に取り組むこと。

・オフィスアワー：金曜日授業終了後

・遅刻の取り扱い：正当な理由のない遅刻は原則として認めない。

・特に経費は必要ない。

情報端末の活用

・テーマの調査や資料作成、発表などで使用するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

・課題やレポートの提出が求められた場合は、教員の指示に従ってmanabaやTeamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。

以下の項目で評価する。

- ①第5回までのAL課題中の議論の参加状況 (20%)、②第5回までのAL課題レポート (20%)、③第6回～第14回のグループでの議論および質疑応答への参加状況 (20%)、④第6回～第14回のレポート (20%)、⑤第6回～第14回のプレゼンテーション (20%)

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子、他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -
著者名	佐藤智明、他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
----	-----------------------------

著者名	上村和美、他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1405	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T (都市システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	原田 隆郎 (Takao HARADA)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

都市システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活, 主体的な学修, 知識・技能, 思考力, 判断力, 表現力, キャリア, グローバル化, レポート作成, 発表, グループディスカッション, グループワーク

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につけることができる。
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につけることができる。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力, 思考力・判断力・表現力の基盤を身につけることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:

【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入: 大学という学修・生活環境における自由と責任 (1年生クラス担任:以下, 担任と記す), ディスカッション+「ミニツツペーパー」テーマ:「大学生と高校生の違いは?」

【授業外学修】教科書: 茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう - の第1章について確認しておくこと。

第2回:

【授業内容】高校から大学への「学びの転換」(担任), ディスカッションテーマ「高度技術者への履修計画について」

【授業外学修】教科書: 茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう - の第2章について確認しておくこと。

第3回:

【授業内容】「聞く」, 「話す」に関する技法と作法 (担任), ディスカッションテーマ「効果的なディスカッション・プレゼンテーションについて」

【授業外学修】教科書: 茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう - の第3章について確認しておくこと。

第4回:

【授業内容】「読む」, 「書く」に関する技法と作法 (担任), ディスカッションテーマ「オリジナリティーのあるレポート作成について」

【授業外学修】教科書: 茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう - の第4章について確認しておくこと。

第5回：

【授業内容】図書館の活用（担任），ディスカッションテーマ「レポート作成と情報収集について」*注）なお，図書館の都合により日程変更になる可能性がある。

【授業外学修】教科書：茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－の第5章について確認しておくこと。

第6回：

【授業内容】大学院への進学（担任），ディスカッションテーマ「大学院への進学について」

【授業外学修】茨城大学大学院への進学について，配布資料・ノートなどを確認しておくこと。

第7回：

【授業内容】茨城県水戸市の魅力を知ろう!!（1）（担任），教員が水戸市内の社会基盤紹介と共に，図書館などを活用して，茨城県内の行ったところ，行ってみたいところを調査してみよう。「グループディスカッション」（グループワーク）の実施

【授業外学修】観光パンフレットなどを確認しておくこと。また，現地踏査・現地調査などで，行ったところや行ってみたいところなどを確認するのも良い。

第8回：

【授業内容】茨城県水戸市の魅力を知ろう!!（2）（担任），教員が水戸市内の社会基盤紹介と共に，図書館などを活用して，茨城県内の行ったところ，行ってみたいところを調査してみよう。「グループディスカッション」（グループワーク）の実施

【授業外学修】観光パンフレットなどを確認しておくこと。また，現地踏査・現地調査などで，行ったところや行ってみたいところなどを確認するのも良い。

第9回：

【授業内容】茨城県水戸市の魅力を知ろう!!（3）（担任），成果発表会を実施する。プレゼンテーション「グループ成果発表」

【授業外学修】グループ発表は，事前にグループで話し合っておくこと。

第10回：

【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋社会基盤系関係教員），「社会基盤分野」における研究課題の説明，「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成準備の実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第10回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第11回：

【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋社会基盤系関係教員），「社会基盤分野」における研究課題に関する「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第11回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第12回：

【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋建築系関係教員），「建築分野」における研究課題の説明，「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成準備の実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第12回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第13回：

【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋建築系関係教員），「建築分野」における研究課題に関する「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第13回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第14回：

【授業内容】第1回成果発表会（前半）を実施する。プレゼンテーション「グループ成果発表」，レポート「個人成果発表」

【授業外学修】グループ発表は，事前にグループで話し合っておくこと。教科書：茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－の第3章 3.および第4章 3.について再確認しておくこと。

第15回：

【授業内容】第2回成果発表会（後半）を実施する。プレゼンテーション「グループ成果発表」，レポート「個人成果発表」

【授業外学修】グループ発表は、事前にグループで話し合っておくこと。教科書：茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－の第3章 3.および第4章 3.について再確認しておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

第7回～第15回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。

※授業外学修の時間数は、各回とも1～2時間程度を必要とする。

履修上の注意/Notes

30分以上の遅刻は欠席と見なす。

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

現地調査・現場見学などの経費は自己負担となる。

本ゼミの担当教員は1年生クラス担任である(※)。本ゼミに関するゼミ時間外の相談は、1年生クラス担任にすること。

オフィスアワーを含め具体的な相談方法の説明はガイダンス時に1年生クラス担任が行う。

情報端末の活用

授業内でPCを使用する。例えば、授業内の情報収集やプレゼンテーション資料の作成など。毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的な学生生活を行う意欲と主体性，専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤，協働的な課題解決のためのコミュニケーション力，思考力・判断力・表現力の基盤が，極めて高いレベルで達成されている。

A:自律的な学生生活を行う意欲と主体性，専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤，協働的な課題解決のためのコミュニケーション力，思考力・判断力・表現力の基盤が，高いレベルで達成されている。

B:自律的な学生生活を行う意欲と主体性，専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤，協働的な課題解決のためのコミュニケーション力，思考力・判断力・表現力の基盤が，おおむね以上のレベルで達成されている。

C:自律的な学生生活を行う意欲と主体性，専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤，協働的な課題解決のためのコミュニケーション力，思考力・判断力・表現力の基盤が，最低限のレベルで達成されている。

D:自律的な学生生活を行う意欲と主体性，専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤，協働的な課題解決のためのコミュニケーション力，思考力・判断力・表現力の基盤が，最低限のレベルまで達成されていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ディスカッション」や「ミニツツペーパー」(20%)，②課題レポート(40%)，③2回のプレゼンテーション(20%+20%)により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目を，ガイダンス時に配布するルーブリック(注※)で評価する。※ルーブリックについては教科書を参照してください。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング－大学で学ぶための25のスキル－
著者名	吉原恵子, 他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ－初年次セミナーワークブック－
著者名	佐藤智明, 他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－
著者名	上村和美, 他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0101	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木6	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T (フレックス)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	関根 栄子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

機械システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ①自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ②自らの専門分野 (学部・学科等) に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ③協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入 (自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第5回：図書館の活用 (注※)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第6回：エネルギー機械技術 (1、講義、課題提示)
- 第7回：エネルギー機械技術 (2、講義に関するグループ討議)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。
- 第8回：エネルギー機械技術 (3、討議結果の発表と質疑応答)
(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。
- 第9回：設計製造技術 (1、講義、課題提示)
- 第10回：設計製造技術 (2、講義に関するグループ討議)

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第11回：設計製造技術（3、討議結果の発表と質疑応答）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第12回：情報機械技術（1、講義、課題提示）

第13回：情報機械技術（2、講義に関するグループ討議）

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第14回：情報機械技術（3、討議結果の発表と質疑応答）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第15回：なるほど技術者講演会（企業講師による講義、業務・研究開発内容等の紹介）

【授業外学修】

(全学共通部分について)教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・commonsなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

後半部分の講義では、事前に関連キーワードを調査しておくことと理解しやすい。講義に関するグループ討議については、課題内容を理解して十分な調査を行い、自らの考えをまとめてから臨むこと。討議結果の発表と質疑応答のプレゼンテーションでは、前週の討議の結果をまとめてから資料を作成し、発表練習を行って時間内での分かりやすい発表を心がける。また提出課題やレポートには真剣に取り組むこと。

予習・復習の目安となる学修時間は各週4時間程度である。

複数教員が担当班を毎回担当する。

※15回の講義のどこかで図書館ガイダンスを実施します。日程はクラスごとに異なるので、授業中の指示に従ってください。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

また、後半部分の同じテーマの講義、グループ討議、発表および質疑応答は、一連の流れで進行するため、欠席するとその前後の授業内容を理解できない。またグループ討議、発表資料作成などには積極的に参加すること。30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

オフィス・アワー：木曜日6講時終了後（それ以外の日時では、メール等で対応する）。

特に経費は必要ない。

情報端末の活用

- ・講義資料はmanabaで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・課題レポートについても、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：思考力・判断力・表現力の重要性を十分に理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

A：思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

B：思考力・判断力・表現力の重要性を概ね理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

C：思考力・判断力・表現力の重要性について最低限の理解をしており、主体的な学修の習慣を身につけている。

D：思考力・判断力・表現力の重要性が理解できておらず、主体的な学修の習慣を身につけていない。

成績の評価方法/Grading

(全学共通部分について) 期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した議事録などの資料（8回程度）（50%）、②課題レポート（1回）（20%）、③プレゼンテーション（1回）（30%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	茨城大学全学教育機構
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子, ほか著。
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	
教材費	1296

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ-初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明、ほか著。
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	
教材費	2052

参考書3

書名	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	上村和美、ほか著。
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○

地域活性化志向	<input type="radio"/>
---------	-----------------------

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

<input type="radio"/>

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

第6回、第9回、第12回ならび第15回の講義では、機械システム工学科のエネルギー機械プログラム、設計製造プログラム、ならび情報機械プログラムに関連する現役の技術者や研究者が、社会的問題とそれを解決するための各企業における技術的な取り組み、また、技術者を目指す学生のために要求される資質などを講義する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1502	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	A(地域)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	井上 栄一, 古谷 綾子, 牧山 正男, 前田 滋哉, 長澤 淳, 高瀬 唯 (Eiichi Inoue, MAKIYAMA Masao, Nagasawa Jun, Takase Yui)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

フレッシュマンゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力・判断力、表現力、研究倫理、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)(担当：井上・牧山・前田・長澤・古谷・高瀬)
地域総合農学科のガイダンス、自己紹介を行い、担任と知り合い、共に学ぶ仲間を知る。

第2回：大学という学修・生活環境における自由と責任(担当：井上・牧山)
「茨城大学での学修の手引き」を用いて大学における学修・生活環境における自由と責任について学ぶ。

第3回：高校から大学への「学びの転換」(担当：井上・牧山)
「茨城大学での学修の手引き」を用いて茨城大学の教育体制、大学での授業形態、授業の履修に関するルール、4年間の教育課程、iOPクォーターの有効活用等について学ぶ。授業をふまえて与えられた課題についてレポートを作成する。

第4回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法(担当：井上・牧山)
「茨城大学での学修の手引き」を題材に用いて講義の聞き方、プレゼンテーションでの話し方、聞き方についてディスカッションする。

第5回：「読む」、「書く」に関する技法と作法(担当：井上・牧山)
「茨城大学での学修の手引き」を題材に用いて卒業論文を書くことを想定し、そのための初歩としてレポートを書くために必要な「読む」こと「書く」ことについてディスカッションする。授業での議論をふまえて与えられた課題について実際にレポートを作成する。

第6回：図書館の活用（担当：井上・牧山）※1

図書館ガイダンスの説明を受ける。図書館の活用、情報の集め方についてディスカッションする。

第7回：学びの技法（担当：古谷・高瀬）

グループによる阿見キャンパスオリエンテーションの課題設定（4年間の学習計画策定のため）。グループでディスカッションを行う。

第8回：阿見キャンパスオリエンテーションⅠ（担当：古谷・高瀬）※2

阿見キャンパスに訪問し、農学部施設を見学して情報を収集する。

第9回：阿見キャンパスオリエンテーションⅡ（担当：古谷・高瀬）※2

地域総合農学科の研究室を訪問し研究内容等について情報を収集する。

第10回：阿見キャンパスオリエンテーションⅢ（担当：古谷・高瀬）※2

地域総合農学科の在校生や留学生へのグループインタビューを実施する。

第11回：阿見キャンパスオリエンテーションⅣ（担当：古谷・高瀬）※2

地域総合農学科の卒業生へのグループインタビューを実施する。

第12回：阿見キャンパスオリエンテーションのまとめⅠ（担当：古谷・高瀬）

プレゼンテーション資料を作成し、グループ発表の練習を行う。

第13回：阿見キャンパスオリエンテーションのまとめⅡ（担当：古谷・高瀬）

グループ発表を実施し、調査結果を共有する。

第14回：演習Ⅰ（担当：井上・牧山・前田・長澤・古谷・高瀬）

インターンシップなどiOPクォーターの活用について調査する。

第15回：演習Ⅱ（担当：井上・牧山・前田・長澤・古谷・高瀬）

学生による個人発表。

※1：図書館ガイダンスの日程は変更の可能性があります。その場合にも休講とはせず、それまでの授業の振り返りを実施します。

※2：阿見キャンパスオリエンテーションは6月12日（日）に農学部で実施します。当日は水戸キャンパスからバスでの送迎があります。現地集合も可能です。講義4回分に当たりますので日曜日ですが必ず出席すること。

【授業外学修】

- (1) 教科書・参考書を読み込み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。
- (2) 講義後には、授業で行った内容について復習をし、予習時との差異について整理する。
- (3) 授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズやオンラインを利用してさらに深める。
- (4) 学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。
- (5) 第3回と第5回では授業外学習として、授業をふまえて与えられた課題についてレポートを作成する。提出されたレポートは教員が添削して返却するので、自身が伝えたかったことが相手に適切に伝わったかどうか振り返りを行う。
- (6) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1～3回では自身の意見や各回で学んだ内容を要約し口述または記述によって他者に伝えることを学習する。
- (2) 第4～6回では各回のテーマに関連した内容でグループディスカッションを行う。
- (3) 第7～8回では、阿見オリエンテーションの準備と実施を通して、グループ単位で所属コースとそのカリキュラムについて事前調査と現地調査を実施する。
- (4) 第12～13回では調査の結果をグループで取りまとめ発表する。

- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
- ・遅刻は3回で1回の欠席として扱う。なお遅刻の限度は授業開始後30分までとし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。
- ・阿見キャンパスオリエンテーションは6月12日（日）に農学部で実施します。当日は水戸キャンパスからバスでの送迎があります。現地集合も可能です。
- ・阿見キャンパスオリエンテーションは講義4回分に当たりますので必ず出席すること。

情報端末の活用

- ・授業内でPCを使用（ヘッドフォン、マイクを含む）する。
- ・課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について十分説明ができています。
- A：自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について説明ができています。
- B：自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について概ね説明ができています。
- C：自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について最低限の説明ができています。
- D：自律的な学生生活を行なうための知識・技能が修得できておらず、自らの専門分野について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①授業への取り組み状況：50%、②課題レポート：25%、③プレゼンテーション：25%により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリック（注※）で評価する。

※ルーブリックは授業内で配付して、学生と共通理解を図る。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 [ほか]著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--